

第2次 かつしか ボランティア活動 推進計画

平成29年3月

社会福祉法人 葛飾区社会福祉協議会
かつしかボランティアセンター



第2次ボランティア活動推進計画の策定にあたって

葛飾区におけるボランティア活動の活性化を図ると同時に、ふれあい・支えあい・たすけあいながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて、平成25年3月に「かつしかボランティア活動推進計画」を策定し、その推進にあたってきました。

この間、葛飾区においては、多様な活動形態の広がりや、災害・被災者支援に対する意識と参加の高まり、公的な福祉制度の見直しに伴うボランティアへの期待、生活課題や福祉ニーズの多様化・複雑化・深刻化など、ボランティア活動を取り巻く環境が大きく変化しています。

一方、第1次計画では、「ボランティア活動を担う人材の育成」を重点取り組みに掲げ、さまざまな形でボランティア活動推進に向けた事業を実施してきましたが、活動の担い手不足をはじめ、情報の不足、関係団体相互の連携体制づくりなどといった課題が依然として残されています。

こうした状況を踏まえ、第2次ボランティア活動推進計画では、第1次計画の理念を継承しつつ、区内でのボランティア活動をさらに広げていくため、①ボランティア活動を担う人材の育成、②情報収集・発信の強化、③協働・連携の推進 の3点を事業展開のポイントとして、ボランティア活動へのきっかけづくり、さまざまな活動との連携体制づくり、ボランティアセンターの機能強化、災害ボランティア活動支援などに全力で取り組んでいくこととしております。

本協議会では、区民の皆さんのご理解・ご支援、そしてご協力をいただきながら、誰もが安心して暮らせる「わがまち葛飾」の実現をめざし、この計画の確実な実行を図って参ります。

結びに、計画策定にあたり、活発かつ真摯にご審議をいただいた検討委員会委員の皆さまをはじめ、関係者の皆さまに対し心から感謝申し上げますとともに、今後もさまざまな形でご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

社会福祉法人 葛飾区社会福祉協議会
会 長 秋 山 精 一

目 次

第1章 計画の概要	1
1. 計画策定の背景	2
2. 計画策定の目的	7
3. 計画の位置づけと期間	8
4. 計画の策定方法	9
5. 計画の評価	10
第2章 ボランティア活動推進に向けた課題と今後の方向性	11
1. ボランティア活動を担う人材の育成	14
2. 情報収集・発信の強化	17
3. 協働・連携の推進	20
第3章 計画の基本的な考え方	23
1. 基本理念	24
2. 基本目標	25
3. 計画の体系	26
第4章 取り組みの展開	29
1. ボランティアの裾野を広げ支えあう地域社会をつくれます	31
2. より良いボランティア活動ができるしくみをつくれます	35
3. ボランティアが活動しやすい体制を整備します	37
4. 災害時に助け合い、生活(地域)の復旧・復興ができる体制をつくれます	40
資料編	43
1. 第2次ボランティア活動推進計画検討委員会	44
2. 検討の経過	46
3. パブリックコメントの実施	46
4. 第1次計画の成果と課題	47
5. 第2次かつしかボランティア活動推進計画策定のためのアンケート調査	50

A decorative graphic consisting of two overlapping circles, one dark gray and one light gray, with a horizontal gray bar positioned below them.

第 1 章

計画の概要

第1章 計画の概要

1. 計画策定の背景

①－1 葛飾区の生活課題～高齢化の進行～

少子高齢化の進行により日本では、15～64歳の人口（生産年齢人口）は1995年を境に、また、総人口は2008年を境に減少に転じています。

葛飾区の0～14歳の人口（年少人口）と15～64歳の人口はほぼ横ばいとなっており、総人口は平成28年に45万人を超え、緩やかな増加傾向にあります。

葛飾区でも全国的な高齢化の進行やひとり暮らし世帯の増加といった社会情勢の変化も無縁ではなく、高齢化率は年々高まっています。

単身世帯の増加と3世代世帯の減少

葛飾区のひとり暮らし世帯の割合は上昇傾向にあり、国勢調査によるとその数は平成22年には74,466世帯と、平成17年と比べて約1.3倍に増え、全体の37.8%を占めています。

一方で、昔ながらの3世代世帯の数は6,204世帯と、平成17年の約3/4に減少し、全体の3.1%となっています。

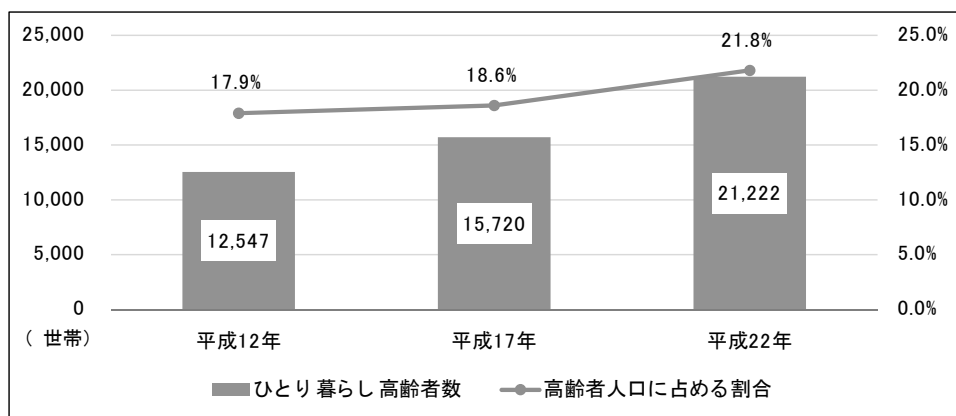
世帯の人員数が少なくなっており、さまざまな生活課題について、家庭内で対応することが難しくなっています。

高齢化の進行とひとり暮らし高齢者の増加

葛飾区の高齢化率は、平成20年には超高齢社会の基準とされる21%を上回り、平成28年には24.4%にまで上昇しています。

高齢化が進行する中で、特にひとり暮らしの高齢者の割合が大きく伸びており、平成22年の高齢者人口に占めるひとり暮らし高齢者の割合は21.8%と2割を超え、葛飾区の高齢者のうち5人に1人は、ひとり暮らしの高齢者となっています。

図1-1 葛飾区のひとり暮らし高齢者数と高齢者人口に占めるひとり暮らし高齢者の割合



国勢調査・各年10月1日現在

①－ 2 葛飾区の生活課題～近隣関係の希薄化～

都内でも葛飾区は、地域に昔から長く住み続けている人が多い地域となっています。地域に愛着を持っている人が多く、それが葛飾区の特徴である下町人情にもつながっています。

しかしながら、葛飾区でも、地域でのつながりや支えあい機能が弱まってきていると考えられます。こういった状況から、社会的孤立を背景とする多種多様な地域の生活課題が生まれています。

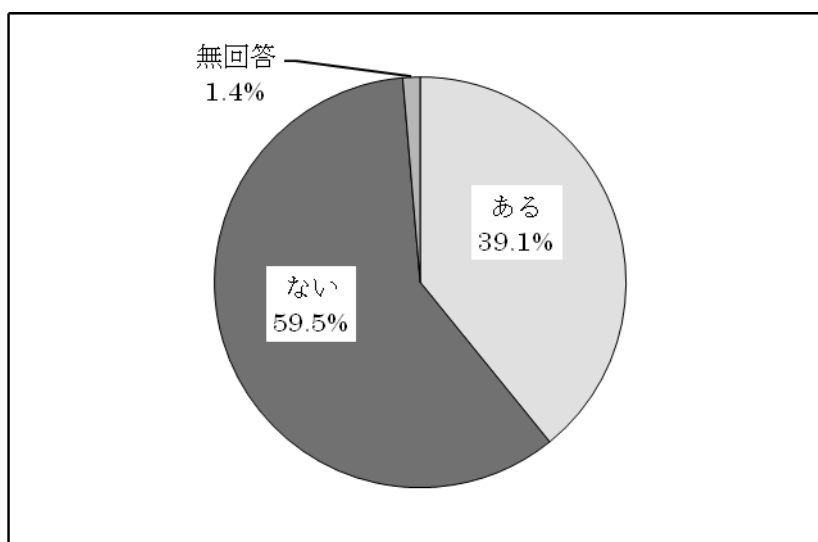
近隣関係の希薄化とそれに伴う生活課題の顕在化

葛飾社協が行ったアンケート調査によると、平成 21 年には加入率が 60%以上の自治町会は、全体の 80.4%を占めていましたが、平成 28 年には 63.6%と 16 ポイント以上も低下しています。

葛飾区政策・施策マーケティング調査では、地域に頼れる人や相談先がないと答えた人は 59.5%となり、隣近所のつきあいが少なくなったり、自治町会など地縁団体との係わり方が変わってきていることが伺えます。

そういった、社会的孤立を背景として、孤独死や引きこもり、貧困、ニート、ゴミ屋敷、虐待などといったさまざまな生活課題が顕在化してきています。

図 1-2 地域で頼れる人や相談先の有無



(平成 28 年度葛飾区政策・施策マーケティング調査)

②ボランティア活動の広がり

葛飾区では、仕事が一段落した人たちをはじめ、今まで社会で培ってきた自分の経験や能力を活かして、地域や社会の役に立ちたいという気持ちを持った人たちが活動を始めています。

自分たちが住む地域の課題は自分たちで解決しようという取り組みが行われており、それが、仲間づくりや生きがいがいづくりにつながっています。また、そういったボランティア活動は、地域の人たちから感謝され、地域福祉の向上にもつながっています。

多様な市民活動や地域活動の活発化

市民意識の高まりなどの影響もあり、地域では多様な市民活動団体による活動が活発に行われています。葛飾区内の認証 NPO 法人数は、122 団体（平成 28 年 8 月 15 日現在）となっており、平成 23 年末時点と比べ約 1.3 倍に増加しています。

また、地域でのサロン活動など、自治町会など地域住民が主体となって行っている身近な地域での見守りや支えあいといった小地域福祉活動も活発に行われています。

葛飾区政策・施策マーケティング調査では、半数以上（62.2%）の人が、自治町会や NPO・ボランティアなどの地域活動が日常生活に不可欠であると答えています。

葛飾区には地域活動を大切だと思う人が多く、そういった人たちがボランティア活動や地域活動を通じて社会貢献や社会参加を行い、生きがい・やりがいを持ち、それが地域の結びつきやきずなの強化につながっています。

ボランティアに対する期待の拡大

葛飾区におけるボランティア活動を見てみると、介護施設などでの演奏や筋肉トレーニング指導をはじめ、子どもたちに対する絵本の読み聞かせなど、さまざまな活動が活発に行われています。また、貧困問題を抱える子どもや親のための子ども食堂といった取り組みも行われています。

そういったボランティア活動は、利用者を含め多くの人から感謝されていますし、ボランティアに対する地域の人からの期待も大きくなってきています。

◆小地域福祉活動とは？◆



◇小地域福祉活動は、地域の困りごとや心配ごとなどの解決に向けた方法や活動内容を皆で考え、共有し、地域住民の皆さんで支えあい、助けあいをしていく活動です。

◇区内では19の地区ごとに取り組みがすすめられています。特徴としては、地域の困りごとなどを協議する推進委員会、解決に向けた活動を実践する運営委員会のしくみをもとに、活動を推進しているところにあります。

③災害リスクの高まり

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災以降、地震をはじめ風水害など、多くの災害でボランティアによる支援が行われ、被災者の生活の復旧・復興にはボランティアの力がなくては取り組めないことが、改めて明らかになりました。特に、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、被災地での復興支援はもちろん、葛飾区でも被災者を受け入れるなど、多くのボランティアによる支援活動が行われ、災害ボランティアに対する区民の意識と参加が高まりました。

葛飾区でも、いざ災害が発生した際に、円滑に活動できるよう平時から支援の仕組みを整えておくことが必要になっています。

区民の防災に対する不安

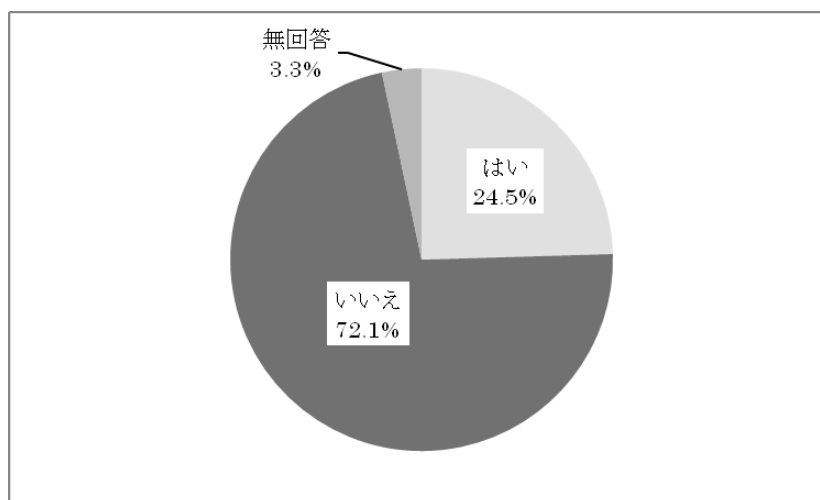
葛飾区は、荒川、江戸川、中川などの河川で囲まれた低地帯に位置し、昔から多くの水害が発生していましたが、近年、河川の改修や下水道の整備により、集中豪雨による浸水被害などは減少しつつあります。

一方で、人口の集中により水害による被害規模の拡大や、新たな都市型水害の発生も危惧されており、依然として高い水害リスクにさらされています。

また、いつ発生するかわからない首都直下地震などへの備えを進めることも、さしせまった課題となっています。東日本大震災などでは、地震発生直後の住民同士による助けあいによって多くの命が救われており、発災時における地域での助けあいの重要性が明らかになっています。

葛飾区政策・施策マーケティング調査では、葛飾区が災害に強く安心して生活できる街になっているかという問いに対して、安心して生活できる街になっていないと答えた人は72.1%となっており、多くの区民が災害に対し不安を感じています。

図 1-3 災害に強く、安心して生活できる街になっていると思うか



(平成28年度葛飾区政策・施策マーケティング調査)

※小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。

④多様な活動形態の広がり

地域では、従来のボランティア活動の概念の枠に収まらない活動形態も広がってきています。これまでのよう個人を中心としたものだけでなく、より社会的な役割を果たすために、NPOなど組織的な活動の展開も進められています。

ボランティア活動を持続させていくためには、活動にかかる経費をきちんと確保できる体制も必要になってきます。そのため、無償性にこだわるのではなく、より持続可能なものとするために、交通費などの実費や小額の謝礼を受け取る「有償ボランティア」と呼ばれる活動も展開されています。

こうしたさまざまな地域活動を行う主体が連携して、地域の生活課題を解決していくことが求められています。

CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の事例紹介

企業も地域コミュニティの一員として、企業活動に関わるすべての人に対して責任ある行動が求められています。ボランティア活動もその代表的な活動であり、区内でも企業による取り組みが行われています。

葛飾区内の取り組み①

区内の企業が、自社製品を作る過程で生じる木材の端材を利用して、児童館で木工教室を開催しています。木工教室を通じて、子どもたちにもものづくりの楽しさや、ものを大切にする心を伝えています。

葛飾区内の取り組み②

区内在住の特例子会社（※）の社員が、社会福祉協議会と協力して、区内の小・中学校で開催する福祉・ボランティア出前講座の講師として、自身の体験や車イス介助のコツなどを教え、障がい者への理解や福祉教育の推進に取り組んでいます。

※特例子会社：障がい者の雇用に特別な配慮をし、一定の要件を満たした上で厚生労働大臣の認可を受けて、障害者雇用率の算定において親会社の一事業所と見なされる子会社のこと。

住民参加型福祉サービスの事例

住民参加型福祉サービスは、住民同士が会員になり、サービスの提供者とサービスの利用者としてお互いに助けあう、住民自身による地域福祉活動です。

一定の利用料を受け取ったり渡したりすることによって、お手伝いする側にとっては活動の促進・継続につながったり、お手伝いしてもらった側にとっては気兼ねない利用につながったりするなどのメリットがあげられています。

葛飾区内の取り組み③ しあわせサービス（社協）

支援を必要としている住民が利用会員となり、サービスの担い手として活動に協力する人が協力会員として会員になります。利用会員が日常生活で困ったときに、協力会員が有償（1時間 700 円）で家事などの援助を行います。

2. 計画策定の目的

歴史と伝統のある地域が多く点在する葛飾区では、古くからの地縁を基盤とした自治町会などによる福祉活動が活発に行われています。また、区内ではさまざまな分野でボランティア・市民活動団体などが積極的な活動を展開しています。

平成24年度に策定された「第2次葛飾区地域福祉活動計画」では、計画の【重点取組】として、ボランティア活動のさらなる拡充と活性化をめざし、ボランティア活動推進の基本となる計画として、「ボランティア活動推進計画」を策定することを決めました。

葛飾区社会福祉協議会・かつしかボランティアセンターではこれを受け、平成25年度に地域の関係者・関係団体とともに「かつしかボランティア活動推進計画」を策定し、ボランティア活動の活性化の取り組みを進めてきました。

この計画が平成28年度で終了することから、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、葛飾区のめぐまれた地域福祉環境を活かしながら、新たな時代に対応できる地域社会の実現と、それを支える葛飾区社会福祉協議会・かつしかボランティアセンターの体制整備のために、「第2次かつしかボランティア活動推進計画」を策定することとしました。



高齢者や障がいのある方の
ちょっとした困りごとを解決



高齢者の孤独感を解消する
食事サービスボランティア

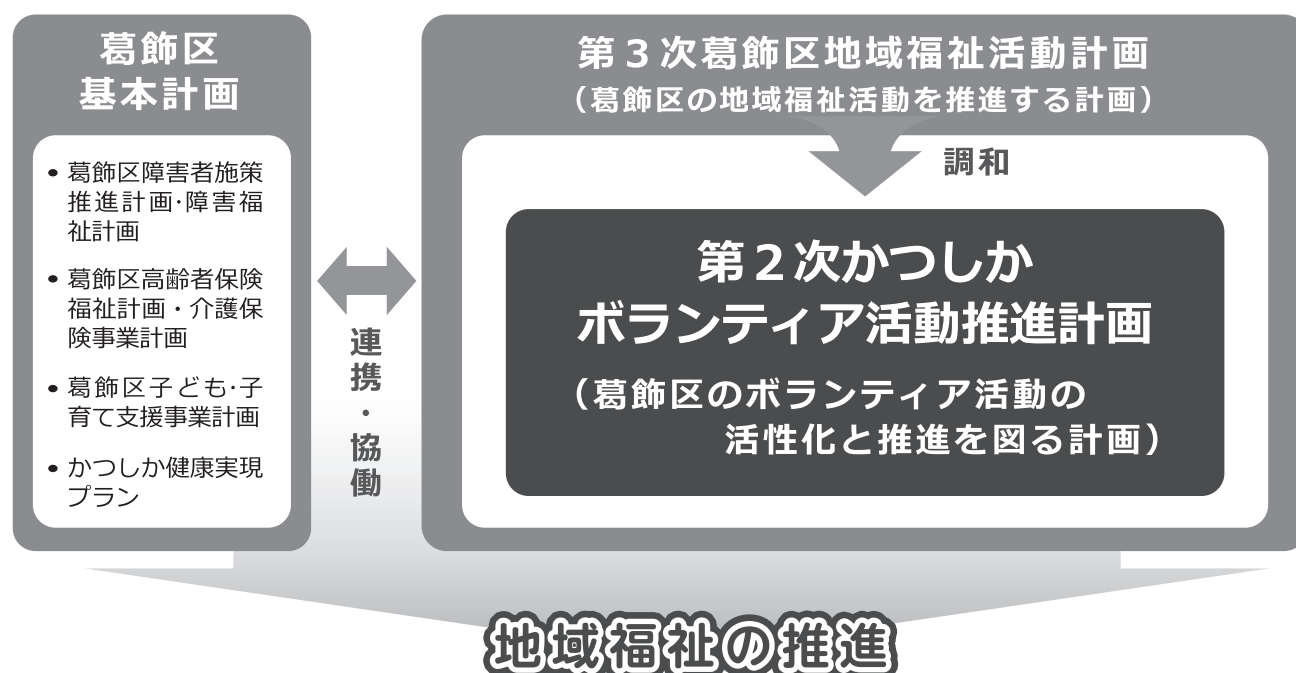


運転ボランティアが
車いす利用者の外出を支援

3. 計画の位置づけと期間

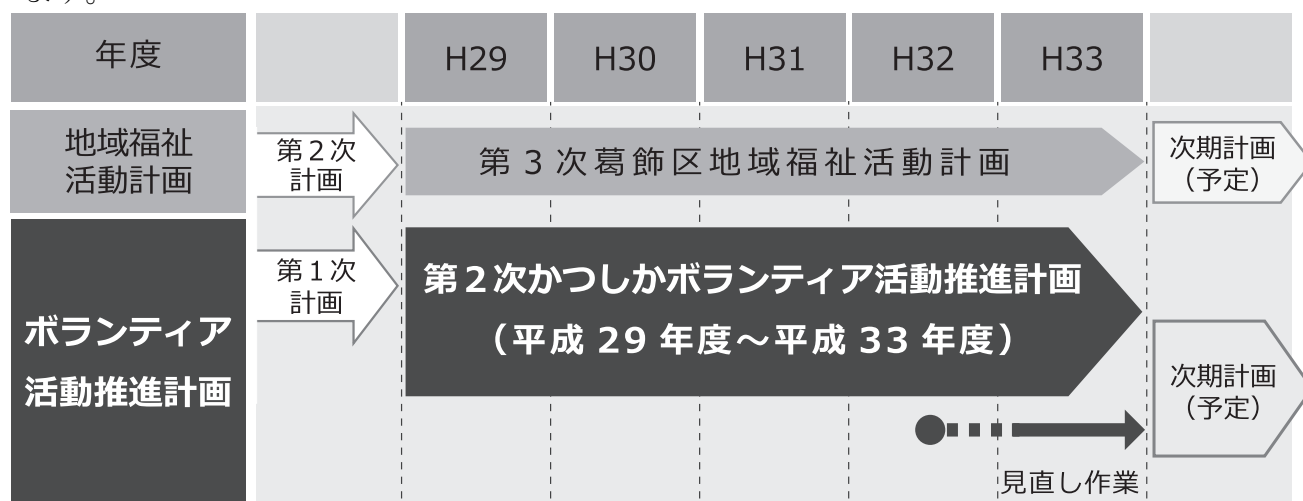
①計画の位置づけ

この計画は、葛飾区社会福祉協議会・かつしかボランティアセンターと区民や地域のさまざまな関係者などの協働により、葛飾区のボランティア活動の活性化と推進を図ることを目的とした計画です。葛飾区地域福祉活動計画の関連計画として位置づけられ、第3次葛飾区地域福祉活動計画と整合性を図りながら、ボランティア活動推進のために取り組む内容を明らかにします。



②計画の期間

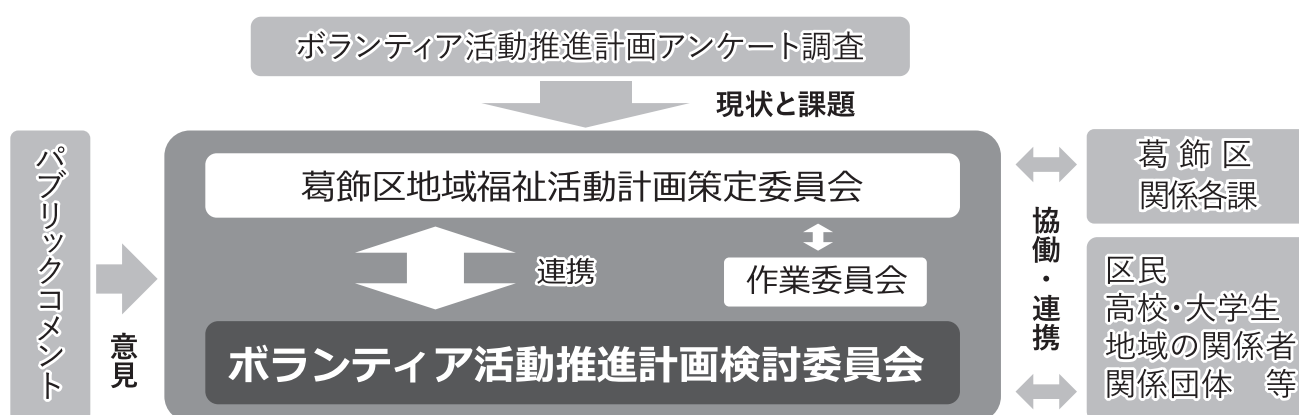
この計画は、平成29年度から平成33年度までの5年間を計画期間とします。この計画期間は第3次葛飾区地域福祉活動計画と同じであり、今後、地域の現状や取り組みの進捗状況を踏まえて第3次葛飾区地域福祉活動計画の見直しが行われた場合は、必要に応じて見直しを行います。計画の最終年度にあたる平成33年度には、次期計画の策定に向けた全体的な総括を行います。



4. 計画の策定方法

この計画は、葛飾区社会福祉協議会・かつしかボランティアセンターが呼びかけて、区民をはじめ区内の高校生や大学生、地域の関係者・関係団体などと協働のもと、行政とも連携しながら策定します。

策定にあたっては、5月から6月にかけて「第2次ボランティア活動推進計画策定のためのアンケート調査」*（資料編参照）として、①高校生調査、②個人ボランティア調査、③ボランティア団体調査を実施しました。このボランティア調査結果などに基づく現状と課題の分析、葛飾区地域福祉活動計画策定委員会、ボランティア活動推進計画検討委員会での検討、パブリックコメントによる区民意見の募集などを行い、区民をはじめとする地域のさまざまな意見を計画に反映させます。

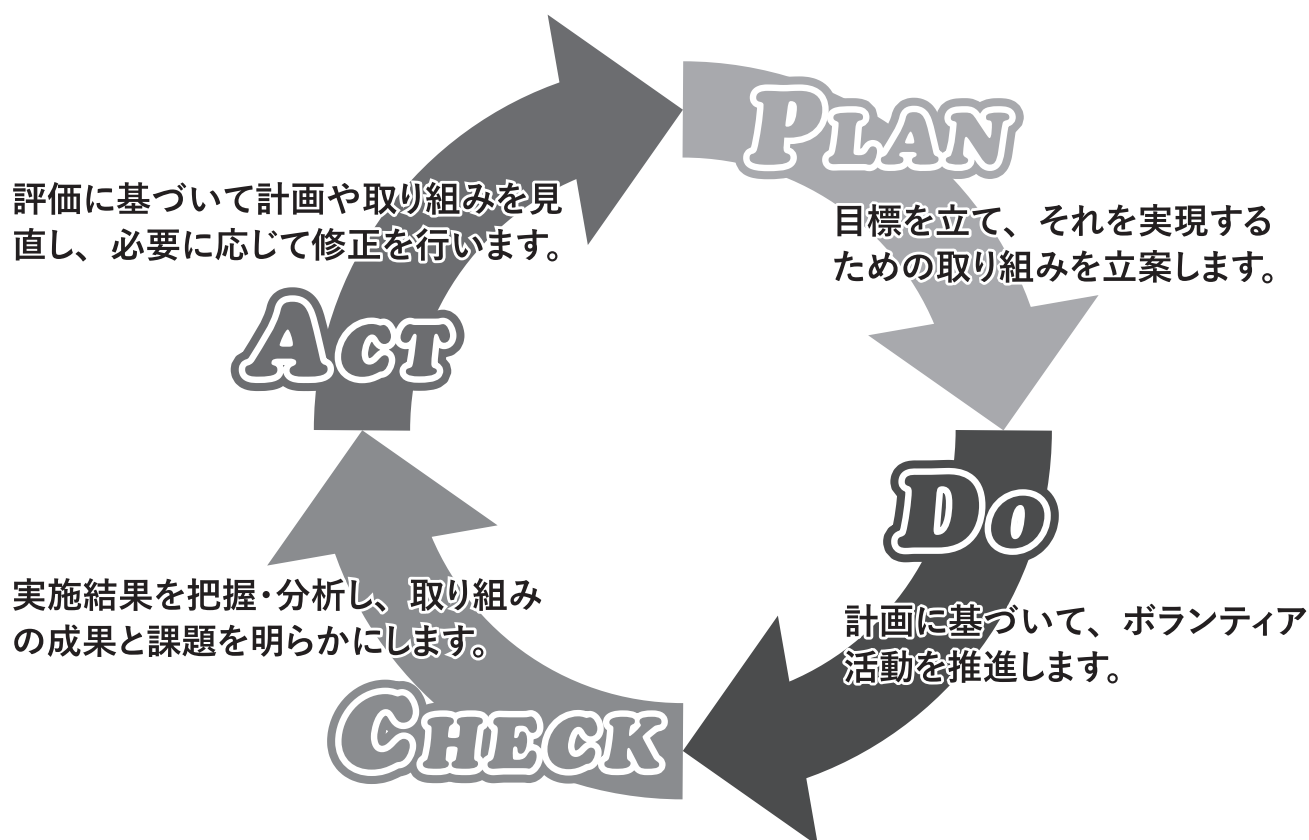


5. 計画の評価

この計画の評価については、葛飾区地域福祉活動計画の進捗評価に組み入れ、葛飾区地域福祉活動計画と一体として行っていきます。各取り組みの実施状況や、区民、関係者・関係団体、区、社会福祉協議会・ボランティアセンター職員などのさまざまな意見を葛飾区社会福祉協議会が定期的に取りまとめ、その報告に基づいて「事務事業評価委員会」の中で進捗評価を行い、必要に応じて取り組みの改善を図っていきます。

計画の進捗管理は、「計画（P l a n）」「実行（D o）」「評価（C h e c k）」「改善（A c t）」のプロセスを順に実施していくPDCAサイクルで行います。

また、計画最終年度には、この計画で実現できた成果と、取り組みの中で明らかになった課題について全体的な総括を行い、その結果を次期計画の策定に活かしていきます。





第 2 章

ボランティア活動推進に向けた 課題と今後の方向性

第2章 ボランティア活動推進に向けた

課題と今後の方向性

葛飾区社会福祉協議会・かつしかボランティアセンターでは、ふれあい・支えあい・助けあいながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて、「かつしかボランティア活動推進計画」を策定し、さまざまな取り組みを進めてきました。

しかしながら、前期（第一次）計画の成果と課題*（資料編参照）について現状を見ていくと、必ずしも計画目標を達成できているとは言えません。多くの取り組みにおいて、参加者や活用が伸びていないということが課題としてあげられており、前期計画の基本理念でもある「みんなで創り・育む 安心して暮らせる『わがまち葛飾』」を実現するためにも、前期計画以上にボランティア活動の推進に取り組んでいく必要があります。

第2次計画では、より多くの人がボランティア活動に参加しやすい環境を整え、ボランティアに対する理解を促進し、葛飾区でのボランティア活動を広げていくために、第2次計画期間である今後5年間は、① ボランティア活動を担う人材の育成 ② 情報収集・発信の強化 ③ 協働・連携の推進 といった3点をポイントとして、事業を展開していきます。

かつしかボランティアセンターが進む道

気軽に行ける、地域に開かれたボランティアセンター

ボランティア活動や地域活動のとらえ方、取り巻く社会状況が変化している中、かつしかボランティアセンターは今後さらに地域の実情に即した活動を展開し、今まで以上に区民からの信頼を集めていくことが必要です。

また、必要に応じて新たな考え方や、新たな団体とのつながりを積極的に取り入れるなどして、ボランティアセンター自身も変わっていくことが求められています。

さまざまな当事者や思いを持った地域の住民や団体とともに取り組みを進めていき、「かつしかボランティアセンターに行けば、何かしらの道が開ける」と思ってもらえるようなボランティアセンターにしていく必要があります。

社会福祉協議会・ボランティアセンターと地域福祉について

葛飾区社会福祉協議会



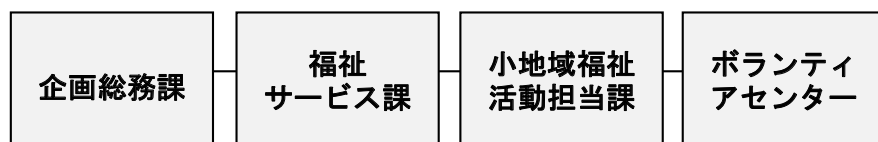
【沿革】

- ・昭和 27 年 12 月に地域関係者による任意団体として設立され、同 37 年 9 月に社会福祉法人として認可、現在に至る

【役割】

- ・地域福祉の推進を目的に、①社会福祉を目的とする事業の企画及び実施、②社会福祉に関する活動への区民の参加のための援助、③社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成、④そのほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業を行う団体と位置づけ（社会福祉法第 109 条）

【事務局内組織概略】



災害時には、区との協定により
災害ボランティアセンターを
設置・運営する役割を担う

【ボランティアセンター概略】

- ・設 立：平成元年 12 月
- ・設置主体：葛飾区、運営主体：社会福祉協議会
- ・役 割：ボランティアの活動拠点として、活動を推進・支援する
- ・主要事業：①相談・紹介・登録、②ボランティアグループ支援、③ボランティア保険支援、④センターだよりの発行
- ・職員体制：5 名（平成 28 年度）
- ・実 績：ボランティア登録：個人 134 名、団体 91 団体・2,391 名
ボランティアグループ支援：17 団体 等（平成 27 年度）

★地域福祉の推進

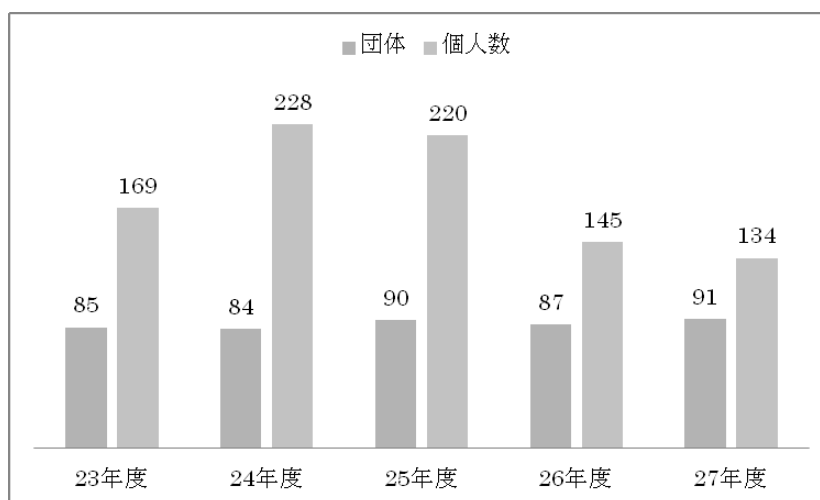
- ・地域福祉とは、だれもが安心して暮らせるよう、区民及び関係機関がお互いに協力して、地域社会の福祉課題の解決に取り組むことを意味します。
- ・社会福祉協議会は、区民及び関係機関・ボランティア・行政等と協働しながら、地域のなかでの支えあい・たすけあいをサポートし、安心して暮らせるまちの実現をめざして、各種の事業・活動に取り組んでいます。
- ・また、地域福祉の推進という目標を区民及び地域の関係機関と共有し、区民や関係機関と協働して、地域における福祉活動を先駆的に企画・実施・支援する役割を担っています。

1. ボランティア活動を担う人材の育成

葛飾区の現状

- ボランティア活動は、多くの場面で「①自発性・自主性」「②社会性・連帯性」「③無償性・無給性」「④創造性・先駆性」「⑤独自性」という特徴を持った活動だとされていますが、現在はビジネスの手法を活用した活動や有償の非営利活動、企業の社会貢献活動（CSR）など、従来の概念をさらに広げた活動形態がでてきています。
- 平成 28 年 6 月末時点のかつしかボランティアセンターへの登録件数は、個人登録が 95 人、団体登録が 98 件、登録団体の人数は 2,100 人となっています。
- 前期計画期間中（平成 25～28 年）のかつしかボランティアセンターへのボランティア登録件数の変化をみると、ボランティア団体登録件数は若干増加傾向があるものの、個人ボランティア登録件数と登録ボランティア団体の人数は全体的に減少しています。

図 2-1 ボランティア登録状況



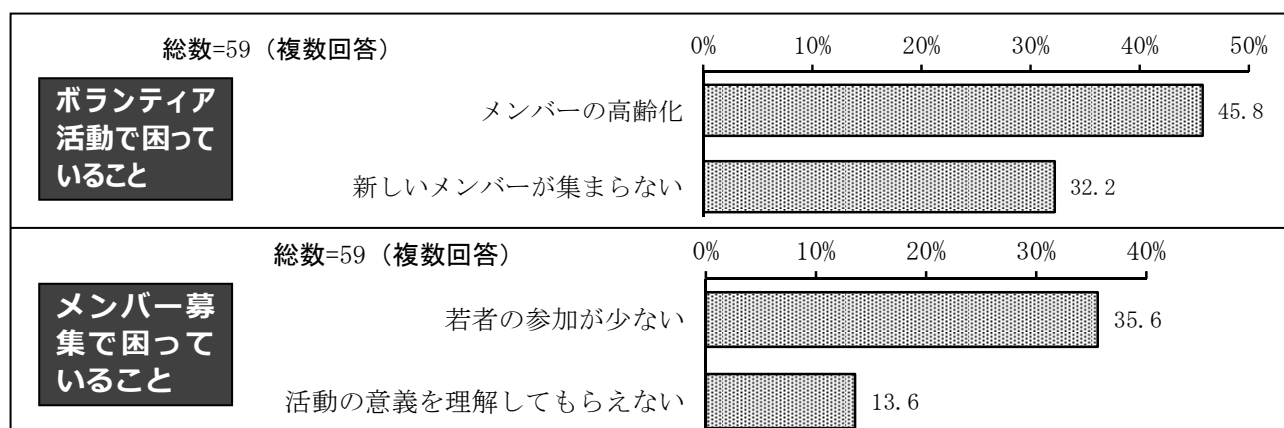
(かつしかボランティアセンター資料)



施設における中学生のボランティアコンサート

- ボランティア団体が、ボランティア活動で困っていることでは「メンバーの高齢化」が45.8%と最も多く、次いで「新しいメンバーが集まらない」が32.2%と新規参加者の不足が上位2つを占めています。
ボランティア団体がメンバーの募集で困っていることは、「若者の参加が少ない」が35.6%と最も多くなっています。
- 団体で行っているメンバーの募集方法では「メンバーや知人からの紹介」が61.0%と最も多くなっています。また、「新規募集をしていない」と「メンバーや知人からの紹介」以外のメンバー募集取り組みを行っていない団体は50.8%となっています。

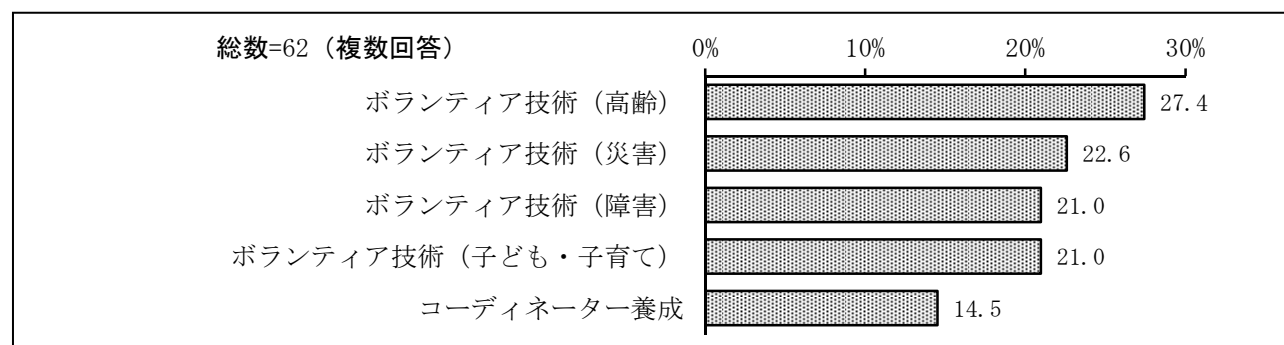
図 2-2 ボランティア団体が「ボランティア活動で困っていること」「メンバー募集で困っていること」



(ボランティア団体調査 上位 2 項目)

- 個人ボランティアが、開催してほしいボランティア講座の内容は「ボランティア技術（高齢）」が27.4%と最も多く、上位4つ全てがボランティア技術に関する内容となっています。

図 2-3 今後開催してほしいボランティア講座



(個人ボランティア調査 上位 5 項目)

現状と前期計画の評価から見えてきた課題

- ✓ 東日本大震災以降、高まっていたボランティア活動に対する関心が、時間の経過とともに薄れつつあります。
- ✓ ボランティア活動に関する研修会や催し物が、ボランティア活動への参加に結びついておらず、取り組み方を再検討する必要があります。
- ✓ ボランティア講座などでは、特定の講座の開催が続いており、地域の要望を把握し、要望にあった企画・運営を進めていく必要があります。
- ✓ 新規参加者を募集する取り組みを行っていないボランティア団体が多く、募集活動に対する支援を行う必要があります。



第2次計画に向けた方向性

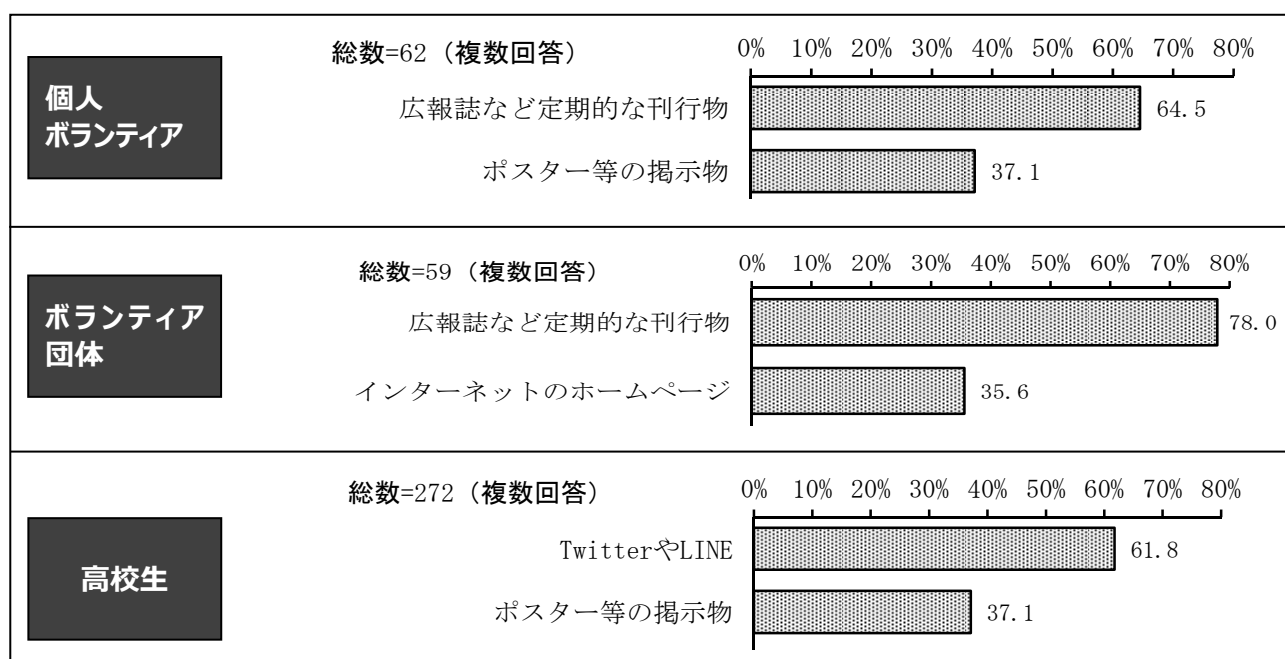
- ボランティアの裾野を広げ、多くの人がボランティア活動に参加できるよう、幅広い年代を対象として、きっかけづくりや活躍の場を増やしていきます。
- 地域でこれからボランティア活動を担っていく人材を育成するためにも、中学生・高校生を中心とした若年層に対する一層の福祉教育を充実させていきます。
- 現在、地域で活躍しているボランティアが、より良いボランティア活動ができるよう、ボランティア講座をはじめスキルアップできる機会の充実や、活動しやすい体制を整えていきます。

2. 情報収集・発信の強化

葛飾区の現状

- ボランティア活動の分野や動機も、参加する人々の増加や範囲の広がりに伴い、多様化してきていますが、ボランティア活動の参加のきっかけでは、個人ボランティアでは「社協やボランティアセンターの広報誌等を見て」が53.2%と最も多くなっています。
- 利用しやすい情報提供の媒体は、個人・団体ボランティアでは、「広報誌などの定期的な刊行物」（個人64.5%、団体78.0%）が最も多く、高校生では、「TwitterやLINE」などのSNSを中心としたソーシャルメディアが61.8%と最も多くなっています。
- 利用しやすい情報提供の媒体で「Facebook等のSNS」「メールマガジン」については、一般のボランティアと高校生とも10%を下回っています。

図 2-4 利用しやすい情報提供媒体



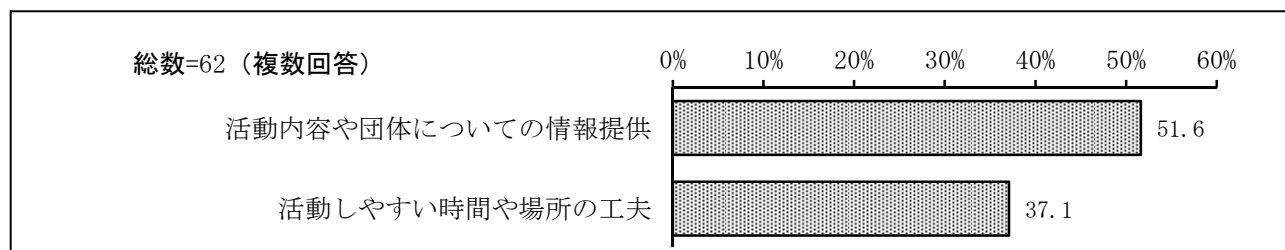
(個人ボランティア・ボランティア団体・高校生調査 上位2項目)

◆ソーシャルメディアとは◆

- ◇パソコンや携帯電話（スマートフォン）などを使い、インターネットを通じて、情報の発信や共有、交流などが行える双方向のメディアです。代表的なものとしては、Twitter や Facebook、LINE 等の SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）があります。
- ◇この SNS では、利用者同士のつながりを促進するさまざまな仕掛けが用意されており、時代の変化と共に、多様なサービスが生まれています。また、年代により利用するサービスが大きく違ってきます。
- ◇広報誌やホームページなどだけではなく、時代の変化や情報を伝えたい層に合わせて、最適なメディアを選び、積極的に活用していくことが必要です。

- ボランティア活動を始める人を増やすために必要なこととしては、「活動内容や団体についての情報提供」が51.6%と最も多くなっています。
- 一方で、「初心者を対象としたボランティア講座の充実」は19.4%と2割を下回っています。

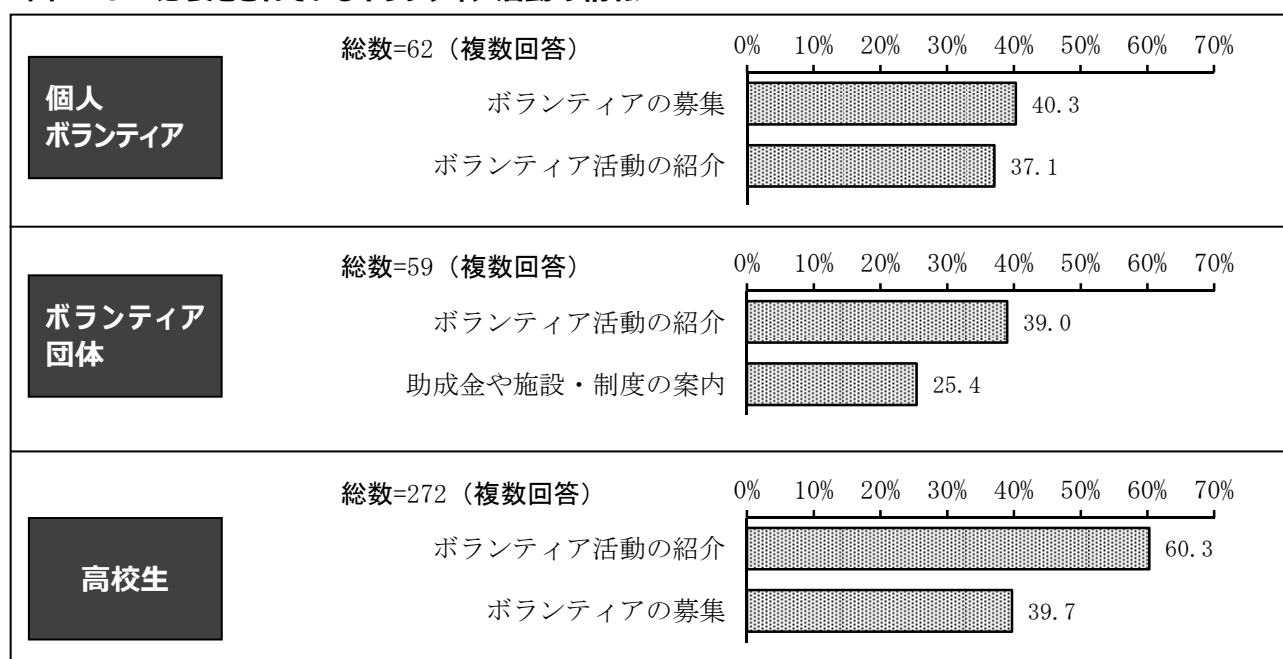
図 2-5 ボランティア活動を始めの人を増やすために必要なこと



(個人ボランティア調査 上位 2 項目)

- 必要とされているボランティア活動の情報は、高校生とボランティア団体では「ボランティア活動の紹介」(高校生 60.3%、団体 39.0%)が最も多く、個人ボランティアでは「ボランティアの募集」が40.3%と最も多くなっています。

図 2-6 必要とされているボランティア活動の情報



(個人ボランティア・ボランティア団体・高校生調査 上位 2 項目)

- 高校生のかつしかボランティアセンターの認知度は、「名前だけは知っている」が9.2%、「名前も活動内容も知っている」が2.2%で、86.8%の高校生は「知らない」と答えています。

現状と前期計画の評価から見えてきた課題

- ✓ かつしかボランティアセンターの存在や、ボランティア活動や団体などの取り組みについて、地域での理解や認知が十分に進んでいません。
- ✓ 世代ごとに利用しやすい情報提供の媒体が違い、若年層に対する情報提供には「Twitter や LINE」を、一般の中高年層以上には「広報誌などの定期的な刊行物」と対象ごとに使い分ける必要があります。
- ✓ Facebook などの SNS やメールマガジンが利用しやすいとした人は 1 割を下回っており、取り組みを再検討する必要があります。
- ✓ 情報としてボランティア活動の紹介が求められており、地域でどのようなボランティア活動が行われているのか、情報の収集と発信が不十分です。



第 2 次計画に向けた方向性

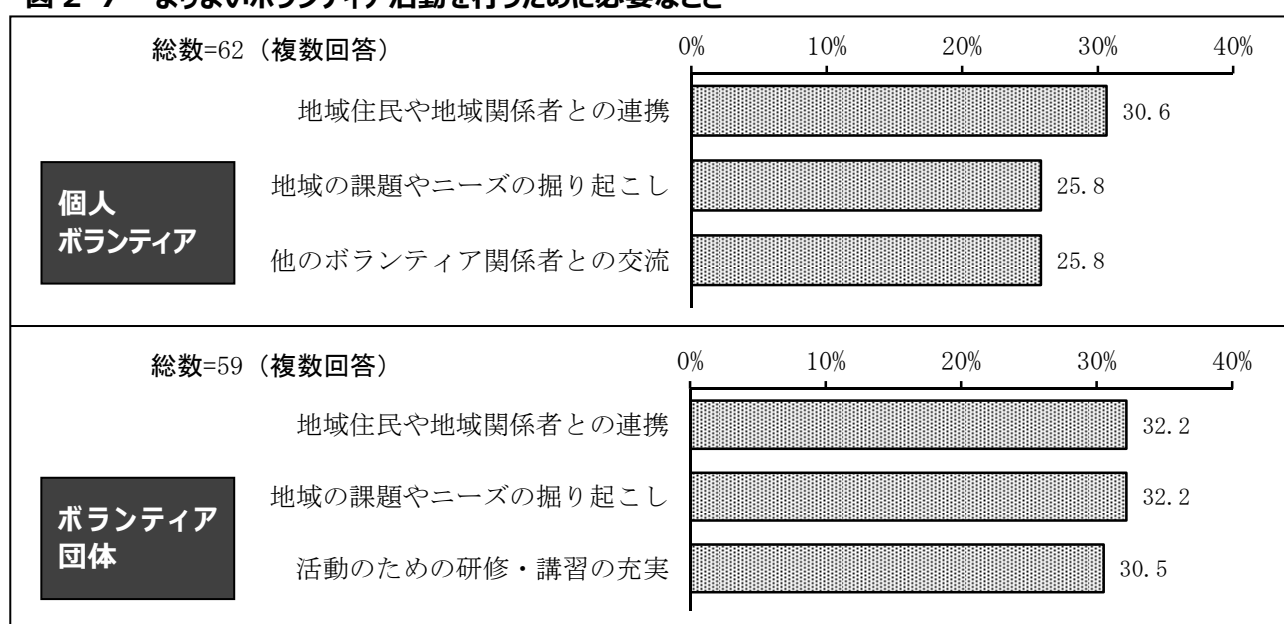
- ボランティアセンターだよりなどの、ボランティア活動に関する既存の媒体の内容をより充実させるとともに、Twitter や LINE など新しいメディアを活用して、今まで情報が届きにくかった人に対しても積極的に情報提供を行います。
- 地域の課題やニーズの掘り起こしを行い、地域のボランティア活動に関する幅広い情報収集を進めていきます。
- 個人ボランティア・ボランティア団体、関係団体の情報発信力を高め、知りたい情報を知りたい時に簡単に手に入れられるよう、地域の住民が情報を受け取りやすくする仕組みの整備を進めていきます。

3. 協働・連携の推進

葛飾区の現状

- 生活課題の多様化に伴い、さまざまなボランティア活動や地域活動などが連携・協働して地域の生活課題を解決していくことが求められています。
- より良いボランティア活動を行うために必要なことでは、個人ボランティアとボランティア団体では「地域住民や地域関係者との連携」（個人ボランティア 30.6%、ボランティア団体 32.2%）が最も多くなっています。

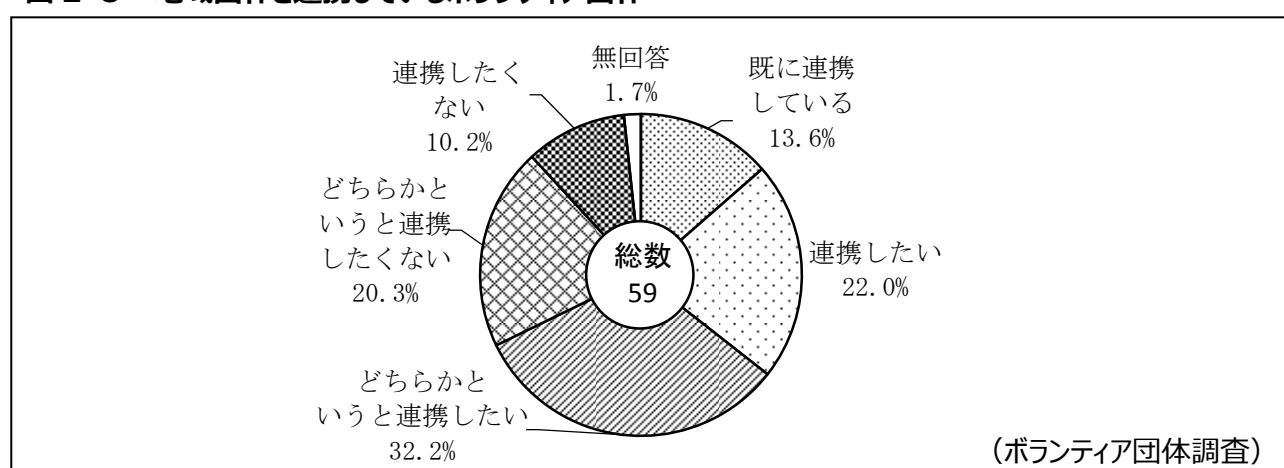
図 2-7 よりよいボランティア活動を行うために必要なこと



(個人ボランティア・ボランティア団体調査 上位3項目)

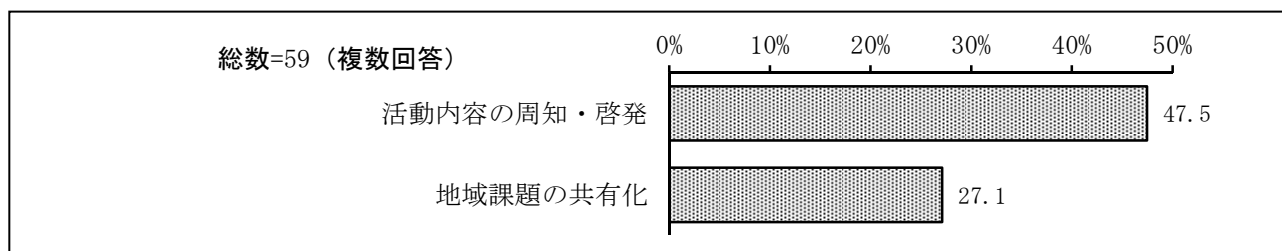
- 地域団体との連携について、ボランティア団体では「既に連携している」団体が 13.6%、現在は連携できていないが、今後「連携したい」と「どちらかという連携したい」は合わせて 54.2%となっています。

図 2-8 地域団体と連携しているボランティア団体



- ボランティア団体が、地域団体と連携する上で必要な取り組みは「活動内容の周知・啓発」が47.5%と最も多くなっています。

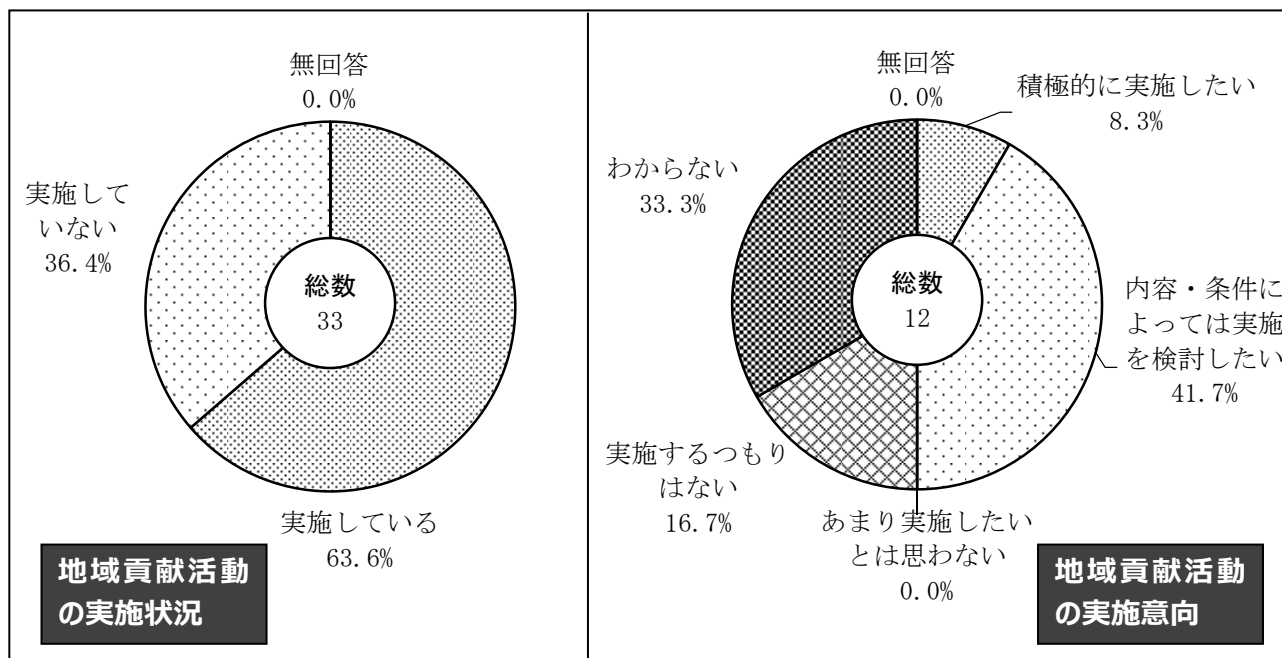
図 2-9 地域団体と連携する上で必要な取り組み



（ボランティア団体調査 上位2項目）

- 社協会員事業者では、地域貢献活動を「実施している」事業者が63.6%、「実施していない」が36.4%となっています。
- 地域貢献活動を現在実施していない事業者のなかで、地域貢献活動について今後機会があれば「積極的に実施したい」事業者が8.3%、「内容・条件によっては実施を検討したい」事業者が41.7%となっています。

図 2-10 地域貢献活動の実施状況と実施意向



第3次葛飾区地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査報告書（平成28年度）

現状と前期計画の評価から見えてきた課題

- ✓ ボランティア活動をより良いものにしていくためには、今まで以上にボランティアと地域住民・地域関係者との連携や、地域の課題・ニーズの掘り起こしが必要です。
- ✓ 地域団体（自治町会など）と連携する意思はありながら、連携にいたっていないボランティア団体があります。ボランティア団体の活動内容について、地域に対する情報発信が不足しています。
- ✓ 地域でのボランティア活動をさらに広めるためには、事業者との連携が必要です。現在、地域貢献活動を行っていない事業者も、内容や条件によっては実施を検討したいと考えているところが半数近くあり、地域でどのような地域貢献活動が求められているのか、事業者に向けた情報提供を積極的に進めていく必要があります。



第2次計画に向けた方向性

- ボランティア団体相互の連携はもちろん、社会福祉施設や介護福祉士等の専門職との一層の連携を進め、地域の生活課題の共有や福祉人材の養成支援につなげていきます。
- テーマ型のボランティア団体・個人と、地縁型の地域住民・団体とをつなぎ、協働の促進やお互いに顔の見える関係を構築していきます。日常的な結びつきの中で、地域の課題に対する気づきや、情報の共有が生まれ、ボランティアが持つ専門性や広域性と地縁団体が持つ地域内の人のつながりを共有することにより、より良い活動を可能にします。
- 災害ボランティア活動をはじめ、行政区域に縛られない広域的な連携体制を構築していきます。

A decorative graphic consisting of two overlapping circles, one dark gray and one light gray, with a horizontal gray bar below them. The text '第3章' is centered within the light gray circle.

第3章

計画の基本的な考え方

第3章 計画の基本的な考え方

1. 基本理念

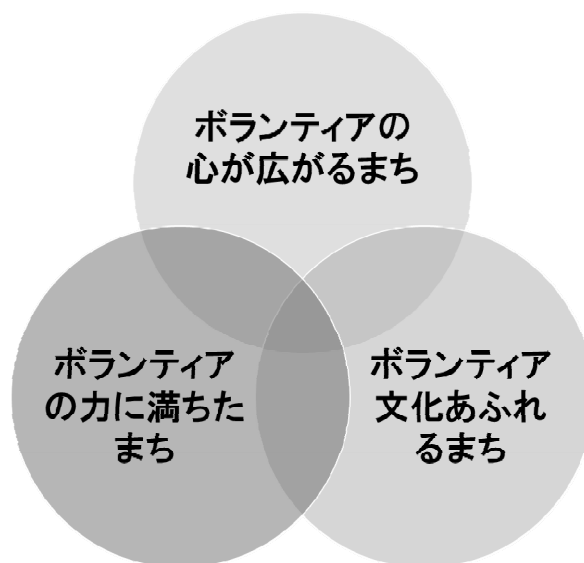
つく はぐく
みんなで創り・育む
安心して暮らせる「わがまち葛飾」

この計画は、葛飾区地域福祉活動計画の関連計画として位置づけられています。そのため、この計画でも葛飾区地域福祉活動計画の基本理念を受け継ぎ、「みんなで創り・育む 安心して暮らせる『わがまち葛飾』」を基本理念とします。

葛飾区に暮らすすべての区民が、住み慣れたまちで、自分らしく、安心して暮らし続けることができる地域社会の実現をめざし、区民一人ひとりの主体的な参加と行動に加え、区民・関係機関・区・社会福祉協議会・ボランティアセンター等がこの基本理念のもとに連携・協働して、ボランティア活動を推進していきます。

2. 基本目標

基本理念を実現するために目指すべき目標として、第1次計画より引継ぎ、以下の基本目標を掲げます。



基本目標1 ボランティアの心が広がるまち

ボランティア活動は、自分の意志で、人々・団体・地域等を支えるための行動です。互いに尊重し、認めあい、共感しあえる心が大切です。ボランティアの心を育て、その心が一人でも多くの人に広がるようなまちをつくっていきます。

基本目標2 ボランティア文化あふれるまち

小さなころからボランティアに親しむ、年をとっても、障がいがあっても、自分の力をいかしてボランティア活動をするなど、誰もが生涯を通じて、ボランティア活動に取り組む。ボランティア活動を通じて、達成感、出会い、学びの機会を得る。そんなボランティア文化あふれるまちをつくっていきます。

基本目標3 ボランティアの力に満ちたまち

区民一人ひとりの主体的な参加と行動によるボランティア活動は、地域の課題を解決することも、地域を変えることもできます。ボランティア活動者が活躍することで、職業や年齢を超えた地域のつながりが生まれ、ボランティアの躍動的な力があふれるまちをつくっていきます。

3. 計画の体系

基本理念・基本目標に基づき、以下のような体系で取り組みを推進していきます。

■ 計画の体系

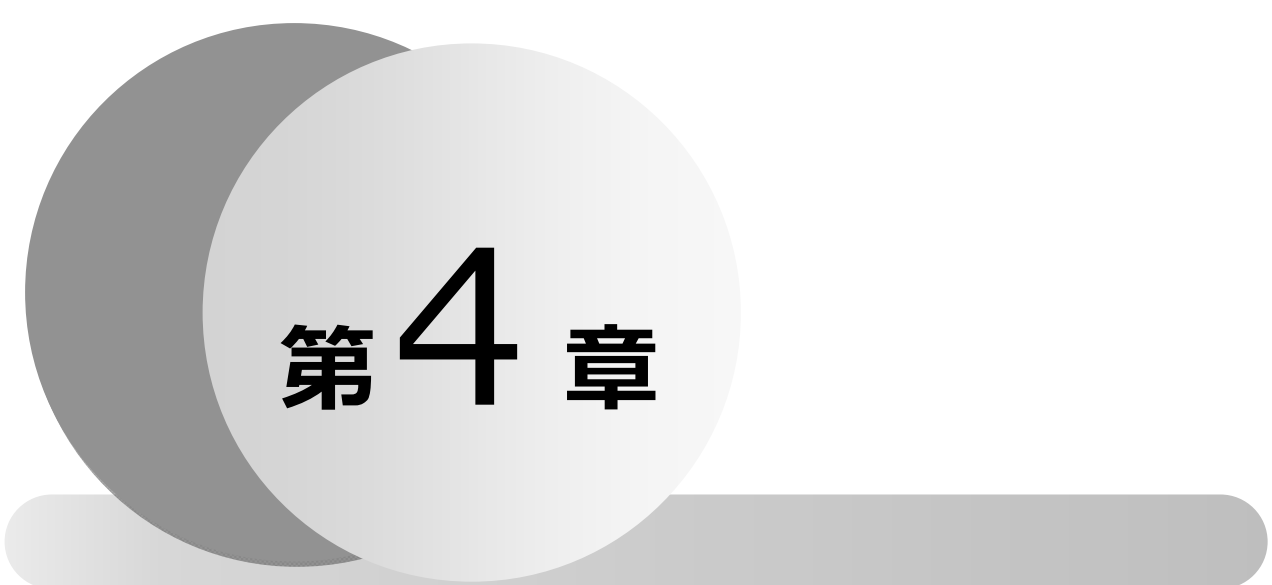
基本理念	基本目標	取り組みのポイント
みんなで創り・育む 安心して暮らせる「わがまち葛飾」	ボランティアの力に満ちたまち ボランティア文化あふれるまち ボランティアの心が広がるまち	協働・連携の推進 情報収集・発信の強化 ボランティア活動を担う人材の育成

基本方針	具体的事業・活動
1. ボランティアの裾野を広げ 支えあう地域社会をつくります 【ボランティア活動への理解や 促進に関する取り組み】	1 福祉・ボランティア出前講座 2 ボランティアまつり 3 ボランティア講座 4 小学生ボランティア活動体験 5 ボランティアスクール 6 ボランティア活動実践プログラムの活用 7 福祉教育推進協力校支援 8 福祉教育研修会
2. より良いボランティア活動が できるしくみをつくります 【ボランティア活動の充実に関する 取り組み】	9 専門ボランティア養成講座 10 小地域福祉活動との連携 11 住民参加型サービスとの連携 12 連携のしくみづくり
3. ボランティアが活動しやすい 体制を整備します 【ボランティア活動支援体制に 関する取り組み】	13 情報収集・発信のしくみの充実 14 相談・紹介・登録 15 ボランティアグループ支援 16 ボランティア保険支援 17 センターの組織強化
4. 災害時に助け合い、生活（地域） の復旧・復興ができる体制を つくります 【災害ボランティアに関する 取り組み】	18 災害ボランティア登録制度 19 災害ボランティア講座 20 災害ボランティア支援 21 関係機関との連携体制づくり



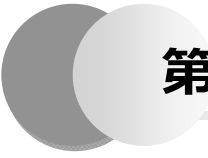
ボランティアまつり

ボランティア活動を多くの方に伝える場

A decorative graphic consisting of two overlapping circles, one dark gray and one light gray, with a horizontal gray bar below them.

第4章

取り組みの展開



第4章 取り組みの展開

1. ボランティアの裾野を広げ

支えあう地域社会をつくれます

【ボランティア活動への理解や

参加の促進に関する取り組み】

2. より良いボランティア活動が

できるしくみをつくれます

【ボランティア活動の充実に関する取り組み】

3. ボランティアが活動しやすい体制を整備します

【ボランティア活動支援体制に関する取り組み】

4. 災害時に助け合い、生活（地域）の

復旧・復興ができる体制をつくれます

【災害ボランティアに関する取り組み】

今回の計画では、重点項目を置かず、4つの基本方針ごとに、活動の方針と目的を記載します。 具体的事業・活動については、基本方針ごとに主な事業を取り上げて目標や取り組みを詳しく記載します。

1 ボランティアの裾野を広げ

支えあう地域社会をつくります

【ボランティア活動への理解や参加の促進に関する取り組み】

■ 活動の方向性

ボランティア活動は、特別な人による特別な活動ではなく、子どもから高齢者まで、障がいの有無や国籍の違いなどに関わらず、自分の興味や関心、また、時間や生活環境にあわせて参加できる活動です。あらゆる人々が互いに支えあい、つながっていけるようなボランティア活動を区内に広めていくことによって、誰もが主体的に参加できる地域社会を実現します。

区の生涯学習課や地域の教育機関、ボランティアセンターが相互に連携し、地域の担い手の育成に取り組んでいきます。

■ かつしかボランティアセンターの取り組み

若年層のボランティア活動に対する理解を促進するため、区内の小・中・高等学校と協働して福祉教育を進めます。出前講座や教員向けの研修会、福祉教育推進協力校に対する助成などを行っていきます。また、福祉教育ハンドブックや福祉・ボランティア活動DVDの活用を促進します。

広く区民を対象に、ボランティア活動への参加のきっかけづくりとして、各種ボランティア講座の充実をはじめ、ボランティアまつりや出前講座を開催し、ボランティア活動に興味のある人へ参加の後押しをしていきます。

■ 地域の活動主体との連携（目標）

区民	◆ ボランティアセンターでは、自分の暮らすまちに関心を持てるよう、様々なボランティア情報を提供し、積極的な活動参加を促進します。 ◆ 思いやりの気持ちをもって協力し合うボランティアの心を育んでいきましょう。
関係者・関係機関	◆ ボランティアセンターでは、ボランティア活動に関する情報を積極的に発信するとともに、活動の場や機会を提供します。 ◆ ボランティアグループや施設、ボランティアに関心のある人同士で連携しながら、ボランティア活動推進に向けた協力体制を築いていきましょう。

■ 主な事業の取り組みと方針

①福祉・ボランティア出前講座	
【対象】小学生・中学生・高校生・地域	
【目的】福祉やボランティア活動についての関心や理解を深めるため	
【内容】 福祉やボランティア活動への関心・理解を深めるため、学校や地域に福祉関係者やボランティアを講師として派遣し、講座を開催します。また、幅広い講座を提供するため、出前講座の講師を養成します。 「車いす体験学習」、「手話体験学習」「福祉講話」などを開催し、福祉やボランティア活動に対する興味・関心を高め、ボランティア活動参加へのきっかけをつくります。様々な体験・講座を実施することで、ボランティア人材の育成に取り組めます。	 学校での講座で福祉やボランティアへの関心や知識を高めます
【第2次計画での方針】	
平成29年度からも、児童・生徒や地域の方々にとって魅力ある内容の講座を開催できるよう、メニューの拡大に取り組んでいきます。また、ホームページやボランティアセンターだよりなどを活用して、福祉教育の効果と必要性を周知するとともに、講師のスキルアップや、積極的に講座メニューを提案するなどのアプローチを展開し、開講数や実施校・団体の拡大を図っていきます。	

取り組み	取り組みの方向性
②ボランティアまつり (ウェルピアまつり)	ボランティア活動について、広く区民の方々に理解してもらい、参加してもらうため、また、日ごろからボランティア活動に取り組んでいる方々の発表や交流の場として開催します。ボランティア活動を多くの区民に体感してもらえよう、ボランティアまつりを情報発信の場として活用していきます。 多くの区民の方々にボランティア活動に親しんでもらうため、社協だよりやホームページ、SNSのほか、近隣の四つ木・堀切・お花茶屋地区の町会へ周知協力を依頼するなど、積極的にPRを行います。また、来場者の関心・理解を高めてもらうよう、各団体の日ごろの活動のPRにより、「体験・PR」の充実を図っていきます。

取り組み	取り組みの方向性
③ボランティア講座	ボランティア活動の理解ときっかけづくりを目的とした講座をはじめ、具体的なボランティア活動を学び体験する講座や、実際に専門ボランティアを養成する講座を実施します。 また、新たなボランティア層の発掘・育成に向け、かつしか区民大学の仕組みを活用するとともに、区の関係各課との協働による新たな講座・取り組みのあり方を検討していきます。 講座受講後に実際の活動につながるよう、情報提供の充実などによる支援を行います。
④小学生ボランティア活動体験	小学生とその家族などを対象に、ボランティア活動への関心を高めてもらうため、ボランティア活動体験を行います。 小さい頃から楽しみながらボランティア活動に触れることで、将来的にボランティア活動に関わる人材の育成に努めます。 高学年にはその後のボランティア活動につながるよう、ボランティアスクールや参加しやすい活動の情報提供などを行います。
⑤ボランティアスクール	ボランティア活動に関心・興味のある中・高生を対象に、基礎学習や体験学習などを実施します。福祉やボランティア活動への認識を深めてもらうとともに、将来の活動者としての人材育成を図ります。



ボランティア活動の理解と活動参加のきっかけ作り
【かつしかボランティア学】



将来のボランティア活動者育成
【中・高生のためのボランティアスクール】

取り組み	取り組みの方向性
⑥ボランティア活動実践 プログラムの活用	ボランティア講座の参加者など、ボランティア活動に興味関心のある人が、スムーズに実践に移れるよう、ボランティア活動や団体を紹介します。 ボランティアグループ一覧を見やすく、わかりやすく、選びやすくするとともに、すぐに活動できるボランティア募集情報など、情報収集と情報発信に努めます。
⑦福祉教育推進協力校 支援	福祉教育に積極的に取り組んでいる学校を「協力校」に指定し、活動費の一部を補助するとともに、情報交換会の開催やパネル展の実施などにより、事業PRの強化を図ります。 学校が必要とするボランティアや福祉に関する情報提供の充実と担当教員などへの積極的なPR、また、福祉教育による児童・生徒への効果を発信するなど、福祉教育推進の取り組みを通じて、各学校との連携を進めます。
⑧福祉教育研修会	福祉教育・ボランティア学習を指導する立場の教員に対して、福祉教育に関する知識や資質の向上を図るため、研修会を開催します。研修会では学校での充実した福祉教育が行えるよう、様々な知識やノウハウ、情報を伝えていきます。 学校に対する案内やPRを工夫し、福祉教育の必要性、重要性を伝えていきます。



福祉教育推進校のパネル展示による
ボランティア活動紹介
【福祉教育推進校支援】



福祉教育推進のための教員向け研修会
【福祉教育研修会】

2 より良いボランティア活動ができる

しくみをつくります

【ボランティア活動の充実に関する取り組み】

■ 活動の方向性

地域では、自治町会をはじめとする地縁型組織やボランティアグループ・NPOといったテーマ型組織など、さまざまな個人や団体、組織でボランティア活動が展開されていますが、ボランティア活動は多様なネットワークをつくることのできる活動です。

ボランティア団体や地域団体相互の連携はもちろん、企業や教育機関なども含め、地域で幅広く協働・連携していける体制をつくっていきます。点を線に、線を面につなぐことで、重層的なボランティア活動の輪をつくり、薄れつつある地域で支えあう関係やつながりを再構築し、多様な主体が協働して生活課題を解決できる地域をつくっていきます。

■ かつしかボランティアセンターの取り組み

小地域福祉活動や住民参加型サービスなどの地域活動や、自治町会をはじめとする既存の地域団体との連携・協働を進めていきます。かつしかVネットの活動支援やボランティアまつりの運営などを通して、より多くの団体に関わる連携体制を構築していきます。

当事者やボランティアのニーズを踏まえ、関係団体と連携・協働しながら、ボランティア活動に関する技術の向上が図られるよう、多様な講座を企画・実施していきます。

■ 地域の活動主体との連携（目標）

区民	♦ ボランティアセンターでは、様々な専門講座の開催とあわせ、枠にとらわれないボランティア活動を紹介することで、幅広い活動を選択できるよう支援していきます。 ♦ ボランティア活動に関する知識や技術を向上させ、自分にできることを見つけ、実践していきましょう。
関係者・関係機関	♦ ボランティアセンターでは、情報提供やお互いの情報交換の機会づくりを充実させます。 ♦ 地域の生活課題などの解決に向け、ネットワークを強化していきましょう。

■ 主な事業の取り組みと目標

⑨専門ボランティア養成講座	
【対象】	区民
【目的】	社会の課題に対応するボランティアを養成するため
【内容】	環境、音訳、点訳、傾聴、食事サービス、おはなしボランティアなど、専門的な知識や技術を必要とするボランティア活動に関する講座を開催します。内容豊富な講座を開催し、多くの方が参加しやすいようにすることで、ボランティアのスキルアップと人材育成に努めます。
【第2次計画での方針】	平成29年度からも、実際の活動を体験するなど、より実践的な内容の講座を実施することにより、1人でも多くの方を活動につなげていきます。 講座では、ボランティア活動の大切さを学ぶとともに、専門分野のボランティア活動に対する理解を深めながら、知識と技術を身につけ、それぞれの分野で活躍できる人材を養成していきます。

取り組み	取り組みの方向性
⑩小地域福祉活動との連携	小地域福祉活動と連携して、ボランティアと小地域福祉活動協力者の相互が、お互いに参加・協力できるよう、情報提供や紹介・交流などの実施に努めます。
⑪住民参加型サービスとの連携	社会福祉協議会が行う、しあわせサービスやファミリー・サポート・センター事業などの住民参加型事業や介護支援サポーター事業などと連携して、有償ボランティアも含めた情報提供や紹介・交流などの実施に努めます。
⑫連携のしくみづくり	ボランティアまつりにおけるボランティア団体相互の連携の促進や、かつしかVネットの活動支援などにより、地域のボランティア団体相互の連携体制を強化します。



3 ボランティアが活動しやすい

体制を整備します

【ボランティア活動支援体制に関する取り組み】

■ 活動の方向性

ボランティア活動の推進は、住民主体による地域福祉の推進そのものです。

ボランティアが活動しやすい体制を整備するため、今まで以上にさまざまな当事者や地域住民、ボランティア団体などに積極的に運営に参加してもらいながら、より区民に開かれたボランティアセンターをめざしていきます。

ボランティアセンターは、地域の多様な活動を受け止め、理解し、支援するとともに、さまざまな機関・組織を結びつけるハブとしての役割を発揮することが求められます。ボランティアセンターは、社会福祉協議会の中で、最も住民に近い位置にあり、広く開かれた場であることを自覚し、「住民参加・協働」による地域福祉を進めるためにも、協働を生み出す先駆的な活動に取り組んでいきます。

■ かつしかボランティアセンターの取り組み

ボランティア活動の総合的な活動・協働・情報の拠点として、ボランティア活動の相談・紹介・登録や、ボランティア保険支援、各種活動助成などを実施していきます。

情報収集・発信については、地域のさまざまなニーズや生活課題をいち早くキャッチし明らかにしていくとともに、必要とする人すべてに適切な情報が届くよう、量的にも質的にも充実したものを、多様な媒体を使って提供していきます。

ボランティアセンターは、住民主体の原則を具体化していくセクションとして、地域の現状を正確に把握し、多種多様な機関・団体をコーディネートできる高い専門性とスキルを備えた人材の育成に取り組んでいきます。

■ 地域の活動主体との連携（目標）

区民	◆ ボランティアセンターでは、区民の参加と協力を得られるよう、親しみやすいボランティアセンターの運営をめざします。 ◆ ボランティア活動での問題や困りごとなどに関する情報提供・情報交換を行い、お互いの信頼関係を築きましょう。
関係者・関係機関	◆ ボランティアセンターでは、地域からの情報収集と地域への情報発信を強化します。 ◆ 情報交換会や交流会などを通じて、連携体制を強めていきましょう。

■ 主な事業の取り組みと目標

⑬情報収集・発信のしくみの充実	
【対象】	区民
【目的】	ボランティアの利用者・協力者に的確な情報を発信する
【内容】	ボランティアセンターのホームページや、ボランティアセンターだよりなどを活用して、ボランティア活動に関する情報を発信します。また、ボランティア活動報告を記事に反映させるなど、誰もがボランティア活動に興味・関心をもてるような情報発信に努めます。
【第2次計画での方針】	常に情報の収集に努め、区民からの相談に確実に対応していきます。そのためには、情報発信の中心となるホームページや広報紙の改良に取り組み、「簡単、わかりやすい、さがしやすい」を目指した広報媒体を作成します。また、各世代向けのポスター作りや掲示場所の工夫なども検討していきます。

取り組み	取り組みの方向性
⑭相談・紹介・登録	ボランティア活動希望者や利用・受入希望者のニーズを的確に把握し、確実・効果的なコーディネートとタイムリーな情報提供を行っていきます。 ボランティア情報などの収集に全力で取り組み、どの相談者に対しても地区別に担当する職員が丁寧で確実なマッチングを行っていきます。ボランティア活動に関するあらゆる情報を収集し、積極的に情報発信することで、区民の要望にしっかりと対応していきます。
⑮ボランティアグループ支援	登録ボランティアグループに対し、活動の育成・充実・発展を図るため、活動助成を通じて支援を行います。 登録団体全てに助成金制度のお知らせを送付するなど、引き続き周知に努めます。必要な団体への支援を通じて、ボランティアグループの育成や連携を進めます。

取り組み	取り組みの方向性
⑯ボランティア保険支援	ボランティア活動中の事故に備えて、登録ボランティアがボランティア保険に加入したとき、その保険料の一部を補助します。 多様な形態のボランティア活動に対応した保険の周知を行うとともに、ボランティア活動者には、引き続き保険加入の必要性を認識してもらうよう努めます。保険加入が安心した活動につながることを十分理解できるように、広報媒体を活用するなど情報発信の方法を工夫していきます。
⑰センターの組織強化	社協組織内でのボランティアセンターの位置づけとその特徴を再認識し、職員研修の実施・充実とあわせて、より効率的な組織整備をすすめます。職員の能力向上と柔軟な対応力を育み、個人ボランティアや団体との連携・信頼関係を築いていきます。



【ボランティアセンターだより】

4 災害時に助け合い、生活（地域）の 復旧・復興ができる体制をつくります 【災害ボランティアに関する取り組み】

■ 活動の方向性

東日本大震災をはじめ、災害時には、住民同士の助け合いやつながりが重要だと強く認識されるようになってきました。応急対策や1日も早い復旧・復興のためには、多くのボランティアによる多様な活躍が欠かせなくなっています。

また、大規模災害では、区内だけの資源（人、物）では、対応に一定の限界があるため、広域的な応援・協力が必要となり、支援を受ける体制整備も重要となっています。

災害時に多くのボランティアが効果的かつスムーズに活動できるよう、日頃から災害に対する体制整備をすすめていきます。

■ かつしかボランティアセンターの取り組み

災害時に災害ボランティアセンターを円滑に運営するため、災害ボランティアセンターの設置・運営訓練をはじめ、災害ボランティア講座の開講や災害ボランティアの確保、災害支援団体との連携体制づくり、各種マニュアルの整備などを行っています。

今後は、前計画に引き続き、区民に対する災害ボランティア・災害ボランティアセンターの情報提供と周知の徹底を図るとともに、各種講座の充実や、関係機関との連携強化など、災害時に円滑なボランティアコーディネーションを行うための取り組みを実施します。

■ 地域の活動主体との連携（目標）

区民	♦ ボランティアセンターでは、災害ボランティアの周知を図り、災害ボランティアの登録者増を目指します。 ♦ 災害時に備え、災害ボランティア活動に対する知識や経験を深めていきましょう。
関係者・関係機関	♦ ボランティアセンターでは、災害ボランティア連絡会議等を活用しながら、関係機関相互の役割について共通認識を持てるよう努めます。 ♦ 普段から情報交換・情報共有を行い、災害時の連携体制を築いていきましょう。

■ 主な事業の取り組みと目標

⑱ 災害ボランティア登録制度	
【対象】	災害時に災害ボランティアとして、支援活動を行う意欲のある区民
【目的】	災害時におけるボランティア活動を円滑かつ効果的に推進するため
【内容】	登録者に対し講座や研修を提供し、平時より災害ボランティアとしてのスキルアップができる体制をつくります。災害時には、ボランティアセンターと登録者が連絡をとりながら、登録者の事情にあわせてボランティア活動を行います。 災害ボランティアとしての登録で終わりではなく、その後のフォローを確実にを行い、被災時に活動の中心となれる災害ボランティアの育成を図ります。
【第2次計画での方針】	平成29年度からも、地域の防災訓練での登録の呼びかけや、学校での災害ボランティア講座などを通して、災害ボランティア活動に対する普及・啓発を進めていきます。登録者向けの講座や訓練などを充実させ、登録者自身のレベルアップに取り組みます。 また、有事の際に災害ボランティアセンターの運営を円滑に行えるよう、地域貢献活動サポートデスクと連携・協力しながら、ブロック間の社協や災害支援団体（NPO・NGO）などとの連携体制づくりを進めます。



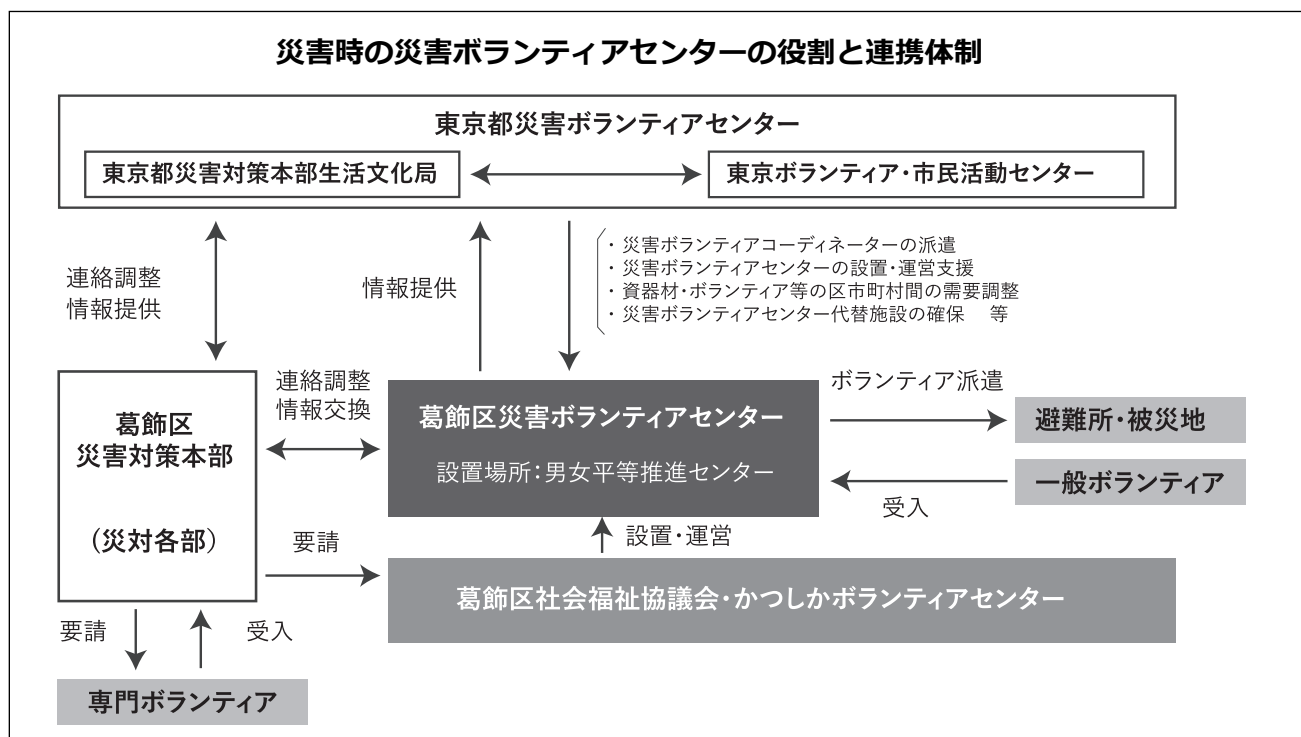
登録者向け災害ボランティアセンター
設置・運営訓練

取り組み	取り組みの方向性
⑲ 災害ボランティア講座	災害時に役に立つ基礎知識から、災害ボランティアセンター運営スタッフの養成まで、幅広く災害ボランティアに関する講座を開催します。また、学校・地域での出前講座のメニューにも加えるなど、幅広い年代層に災害について意識してもらえるような講座を企画・実施していきます。 自らを守るための自助、被災地・被災者を支援する災害ボランティアの重要性を多くの区民に知らせ、災害に関する人材の育成を図ります。



災害に関する知識、自助能力を高め、
災害ボランティアの役割を周知

取り組み	取り組みの方向性
②⑩災害ボランティア支援	災害ボランティア及び災害ボランティアセンターの役割についての周知・啓発や、災害時に災害ボランティアセンターが有効に機能するよう、マニュアルの改訂や訓練などを行います。 災害ボランティアに関するパネルやチラシなどを作成し、あらゆる機会を活用してPRに努めます。また、職員のレベルアップを図るため、勉強会などを実施します。災害に関する情報発信の仕組みを作り、定期的な情報提供により、災害ボランティア支援をしっかりと行います。
②⑪関係機関との連携体制づくり	被災時の情報の混乱を避け、活動を円滑にするため、ボランティア団体、NPO、関係機関などと連携して、災害ボランティア連絡会議を開催します。また、災害支援団体（NPO・NGO など）と協議の場を設け、被災時の役割などの把握と確認を進めます。 これまでのお互いを知る段階から、災害時にどう連携していくかの協議へと移行していきます。





資料編

1. 第2次ボランティア活動推進計画検討委員会

(1) 第2次ボランティア活動推進計画検討委員会設置要綱

(設 置)

第 1 条 ボランティア推進委員会要綱第 3 条の規定に基づき、今後の地域福祉やボランティア活動の将来像を展望し、ボランティア活動推進に関する現状と課題を整理しながら、1 人でも多くの区民が地域福祉の担い手として活動できるよう、計画的・具体的な活動を推進する「ボランティア活動推進計画」を策定するため、ボランティア推進委員会の分科会として、ボランティア活動推進計画検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第 2 条 検討委員会は、次に掲げる事項を検討し、その結果をボランティア推進委員会に報告する。

- (1) ボランティア活動推進計画の策定検討にあたり必要となる調査及び資料の収集・作成
- (2) その他、ボランティア推進委員会からの下命事項

(検討委員会の構成)

第 3 条 検討委員会は、次に掲げる者のうちから、社会福祉法人葛飾区社会福祉協議会（以下「社協」という。）会長が指名する委員 8 名以内をもって構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) ボランティア活動者
- (3) 学校関係者
- (4) 学生（高校生、大学生）
- (5) 福祉施設関係者
- (6) 葛飾区職員

2. この検討委員会に委員長 1 名及び副委員長 1 名を置き、委員長及び副委員長は委員の互選とする。

(会 議)

第 4 条 検討委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2. 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

(関係者の出席)

第 5 条 検討委員会が必要と認めるときは、関係者の出席を求め、説明及び意見を聞くことができる。

(事務局)

第 6 条 検討委員会の事務局は、社協内に置く。

(委任)

第 7 条 この検討委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

付則

この要綱は、平成 28 年 3 月 1 日から施行する。

(2) 第 2 次ボランティア活動推進計画 検討委員会委員

任 期 : 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

所 属 団 体	氏 名	備 考 (役職等)
学識経験者 (明治学院大学)	◎ 河 合 克 義	(社会学部教授)
ボランティア活動者	○ 田 中 厚 志	(アムネかつしか)
葛飾区立上平井中学校	目々澤 幸 雄	(副校長)
葛飾やすらぎの郷 (特別養護老人ホーム)	菊 池 あゆみ	(生活相談員)
東京都立葛飾野高校	越 前 圭 介	(ボランティア部)
	埴 大 輔	
明治学院大学	永 洞 あずさ	(社会学部社会福祉学科)
葛飾区 (行政)	佐 藤 吉 裕	(生涯学習課区民大学担当係長)

◎:委員長、○:副委員長

※ ボランティア活動推進計画検討委員会設置要綱第 3 条 (委員の構成)

所 属 団 体	氏 名	備 考 (役 職 等)
オブザーバー	板 倉 香 子	第 3 次地域福祉活動計画 作業委員会委員長

2. 検討の経過

開催日	委員会名	議事内容等
平成 28 年 6 月 13 日 (月)	第 1 回 検討委員会	①現行計画の概要及び評価（事務局案）について ②ボランティア活動推進計画の策定検討方針について ③アンケート調査の実施について ④今後の検討内容及びスケジュールについて
8 月 18 日 (木)	第 2 回 検討委員会	①アンケート結果のまとめについて ②素案のイメージ（計画の枠組み、体系図等）について
10 月 11 日 (火)	第 3 回 検討委員会	①第 2 次ボランティア活動推進計画（素案）について
11 月 14 日 (月)	第 4 回 検討委員会	①第 2 次ボランティア活動推進計画（素案）について

3. パブリックコメントの実施

第 2 次かつしかボランティア活動推進計画（素案）について、広く区民の皆さま方よりご意見をいただくため、以下の内容でパブリックコメントを実施しました。

閲覧・意見 提出 期 間	平成 28 年 12 月 21 日（水）から平成 29 年 1 月 18 日（水）まで
閲覧 場 所	- 葛飾区社会福祉協議会事務局 - かつしかボランティアセンター - ワークスかつしか - 地域貢献活動サポートデスク - 葛飾区社会福祉協議会・かつしかボランティアセンターホームページ - 区政情報コーナー - 区民事務所 - 地区センター - 区民サービスコーナー
意見受付方法	メールやファックス、ホームページ、社協窓口等での意見の提出

4. 第1次計画の成果と課題

1. ボランティア活動参加へのしくみづくり

(1) 活動参加のきっかけづくり

成 果
● 各種ボランティア講座やボランティアまつり、出前講座の開催などにより、ボランティア活動への参加の後押しを展開し、さらに参加者が実際のボランティア活動にスムーズに参加できるよう、実践プログラムを提供しています。



課 題
● 比較的高齢の方の参加はあるものの、高齢者と比較すると若年層の参加が少ない傾向にあります。
● きっかけづくりを目的とした取り組みへの参加から、実際のボランティア活動に、なかなか結びついていません。

(2) 参加の場の提供

成 果
● 小地域福祉活動や住民参加型サービスなどの、既存の地域活動やボランティア活動との連携を図り、活動参加への支援を行っています。



課 題
● 地域での、ボランティアに対する受入体制がまだ整っていません。
● ボランティア参加者の、地域活動との連携や取り組みに対する周知や理解がまだ十分とはいえません。

2. ボランティア活動を担う人材の育成

(3) 学校との連携

成 果
● 区内の学校への出前講座やボランティア教室を通じて、児童・生徒にボランティア活動などを体験する機会を提供し、福祉やボランティア活動への理解を促進する取り組みを行っています。



課 題
● 福祉教育の重要性に対する十分な理解が進んでいません。
● 出前講座や助成を活用していない学校がまだ多くあります。
● 参加した児童・生徒のボランティア活動への参加が進んでいません。

(4) 地域との連携

成 果
● 既存の地域活動やボランティア活動との連携を図り、活動参加への支援を行うとともに、専門的な知識を持ち、地域の課題に対応できるボランティアの育成を進めています。



課 題
● ボランティアやボランティア活動に対する理解や関心があまり高くありません。
● ボランティア活動に関する幅広い分野の知識を身につけられるよう、各団体との調整を行う必要があります。
● 専門ボランティア養成講座での、若い世代の受講が増えていません。

3. ボランティア活動支援体制の充実

(5) ボランティアセンターの機能強化

成 果
● よりきめ細かい支援を行うため、地区担当制を導入し、ボランティア相談・紹介・登録や施設の貸し出しなど、ボランティア活動に対する支援を行うとともに、ボランティアセンターだよりの発行やかつしかVネットへの支援を行い、連携の促進や情報の発信に取り組んでいます。



課 題
● ボランティアセンターの支援に対する認知度がまだ低く、利用が伸び悩んでいます。
● ボランティアセンターだよりの内容がマンネリ化しており、情報発信効果が薄くなっています。
● ボランティア団体相互の十分な連携体制が整っていません。

4. 災害ボランティア活動体制の整備

(6) 災害ボランティア活動を担う人材の育成

成 果
● 災害ボランティア講座や災害ボランティアセンター設置・運営訓練を行い、地域の災害ボランティアに対する理解や技術の向上を目指し、災害ボランティア登録の推進に取り組んでいます。



課 題
● 災害時に活動の中心的役割を担えるボランティアの数がまだ十分ではありません。
● 登録者のほとんどが中高年以上の方であり、若年層の登録が進んでいません。
● 地域の防災訓練に対する周知が不足しています。

(7) 災害ボランティア活動体制の整備

成 果
● 基本マニュアルと運営マニュアルの改訂、災害ボランティアセンターブロック会議への参加や地域の団体や関係機関との意見交換を行い、災害ボランティア活動体制の整備に取り組んでいます。



課 題
● 基本マニュアルに対する区民の理解があまり進んでいません。
● より実態に即した運営マニュアルになるよう更なる改訂が必要です。
● 区の関係部署や地域の団体との連携がまだ十分とはいえません。

5. 第2次かつしかボランティア活動推進計画策定のための

アンケート調査

(1) 調査の目的

この調査は、「第2次ボランティア活動推進計画（平成29～33年度）」の策定に向け、計画の方向性や重点項目等を決定する際の基礎的な資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査の対象と方法

調査の種類	調査の対象	調査方法
①個人ボランティア調査	かつしかボランティアセンターにボランティア登録している個人143名を対象としました。	調査票を郵送配布し、郵送回収しました。
②ボランティア団体調査	かつしかボランティアセンターに登録しているボランティア団体90団体を対象としました。	調査票を郵送配布し、郵送回収しました。
③高校生調査	葛飾区内の7校の高等学校区内の高等学校に通う高校2年生を各校1クラスを抽出し、272人を対象としました。	学校を通じて調査票を直接配布し、各校でまとめて回収しました。

(3) 基準日

平成28年4月1日現在

(4) 実施期間

①個人ボランティア調査、②ボランティア団体調査

平成28年5月20日～6月6日の期間に実施しました。

③高校生調査

平成28年5月20日～6月15日の期間に実施しました。

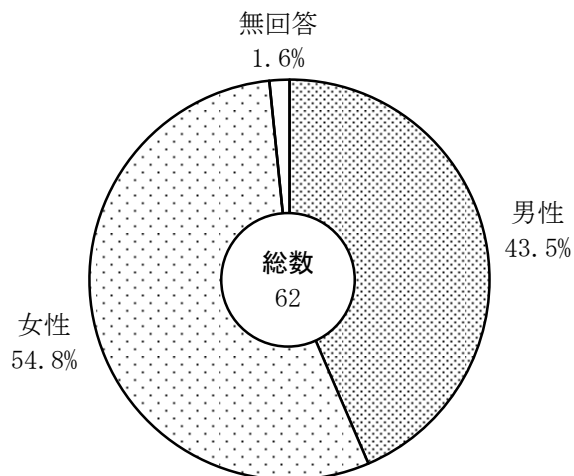
(5) 配布・回収状況

調査の種類	配布数	回収数	白票・無効票	有効回収数	有効回収率
①個人ボランティア調査	143	62	0	62	43.4%
②ボランティア団体調査	90	59	0	59	65.6%
③高校生調査	272	272	0	272	100.0%

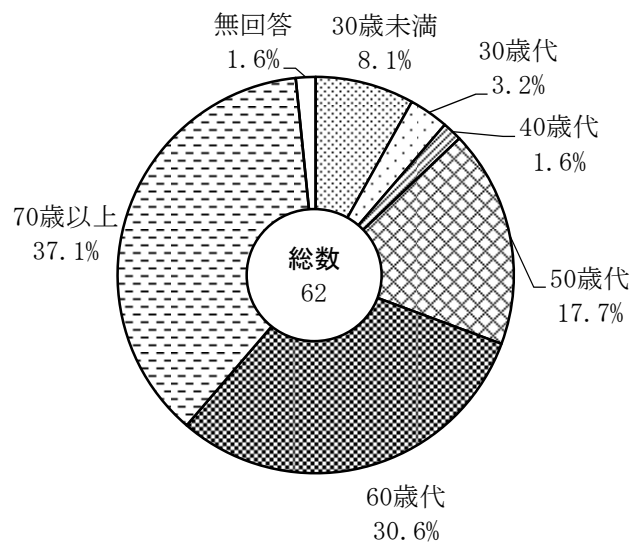
(1) 個人ボランティア調査

(1) 性別

Q 1 あなたご自身についてお聞きします。平成
28年4月1日現在でご記入ください。

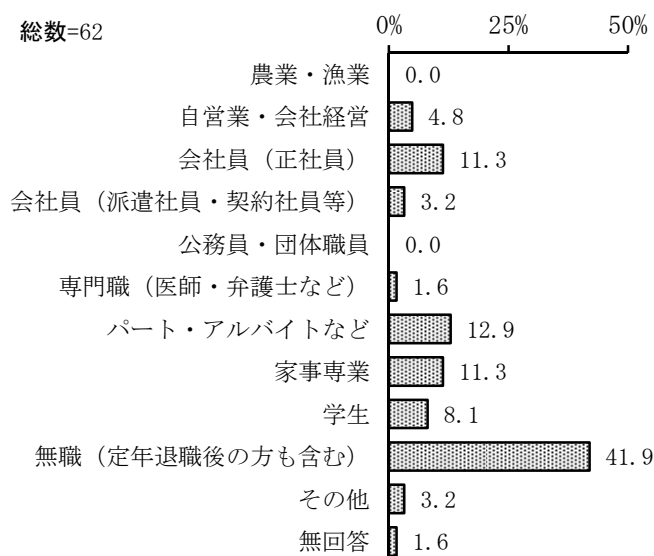


(2) 年齢



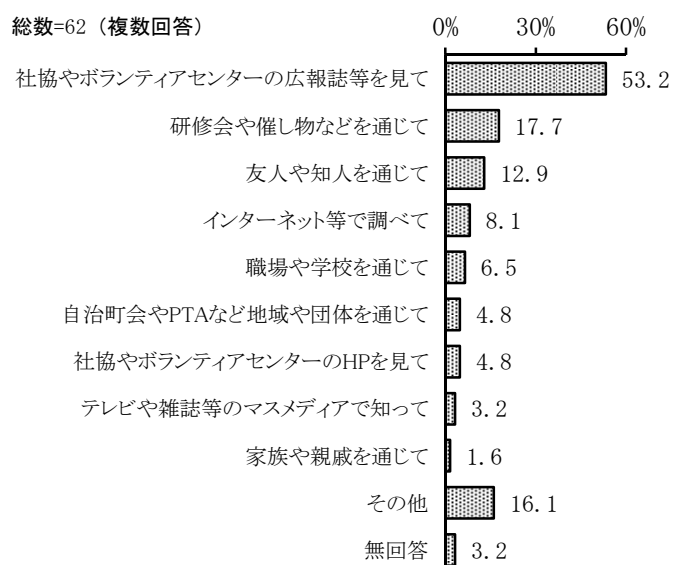
(3) 職業

Q 2 あなたの職業をお聞きします。(主なもの
一つに○)



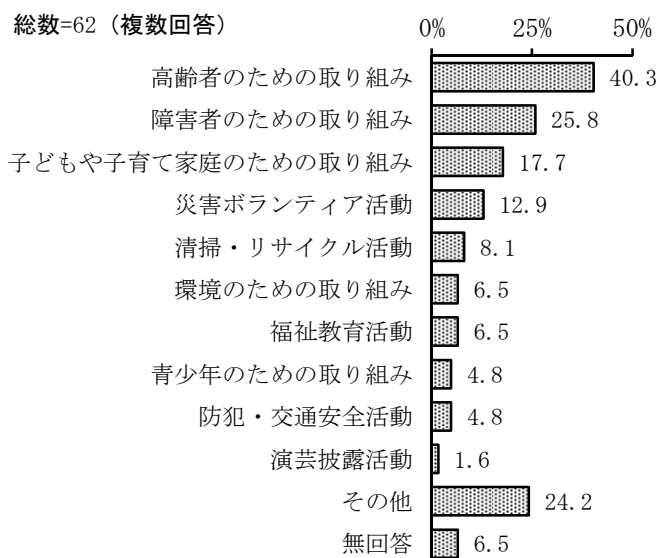
(4) ボランティア活動への参加のきっかけ

Q 3 あなたが、ボランティア活動に参加した直
接のきっかけは何ですか。(○はいくつでも)



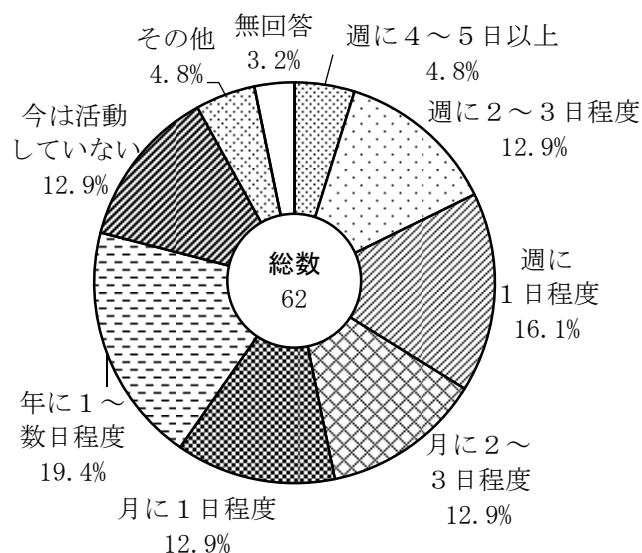
(5) ボランティア活動の分野

Q 4 あなたの行っているボランティア活動はどのような内容ですか。(〇はいくつでも)



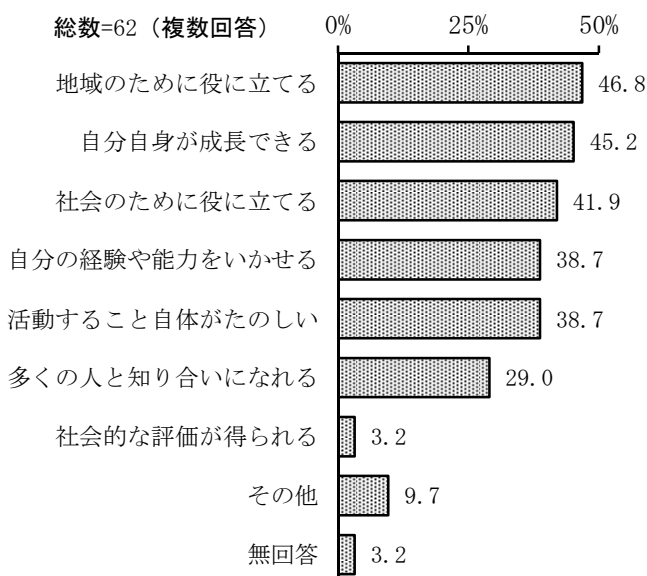
(6) ボランティア活動の頻度

Q5 あなたは、どのくらいの頻度でボランティア活動に参加していますか。ボランティア活動に関する打ち合せや研修なども含めた、すべての時間をお答えください。(〇は一つ)



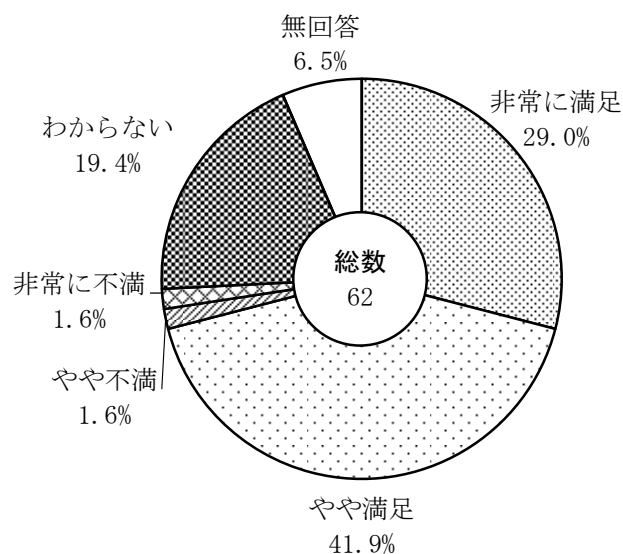
(7) ボランティア活動に参加する目的

Q 6 あなたが、ボランティア活動に参加する主な目的はなんですか。(〇はいくつでも)



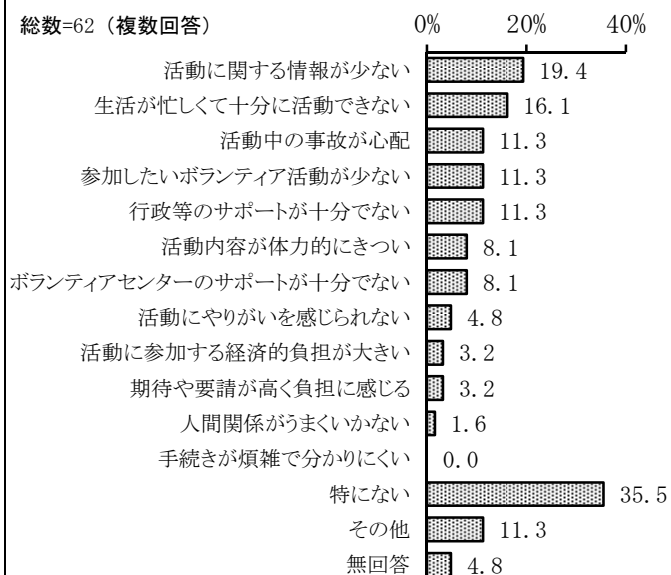
(8) ボランティア活動の満足度

Q 7 あなたは、ボランティア活動に参加してどのように感じていますか。(〇は一つ)



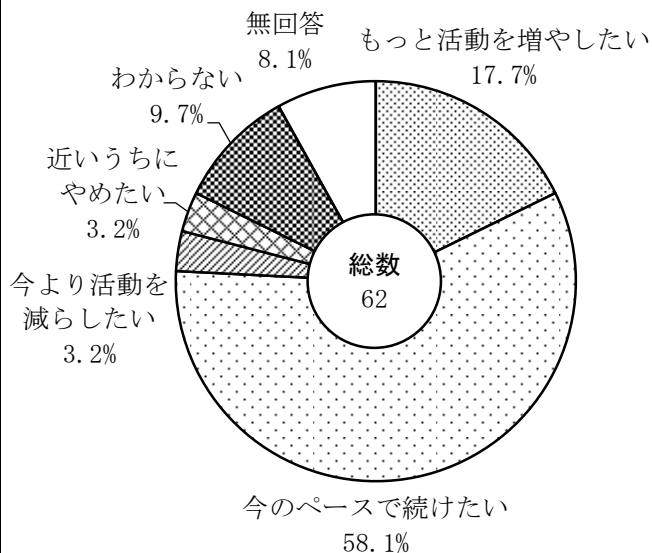
(9) ボランティア活動で困っていること

Q 8 あなたには、ボランティア活動に関して困っていることはありますか。(〇はいくつでも)



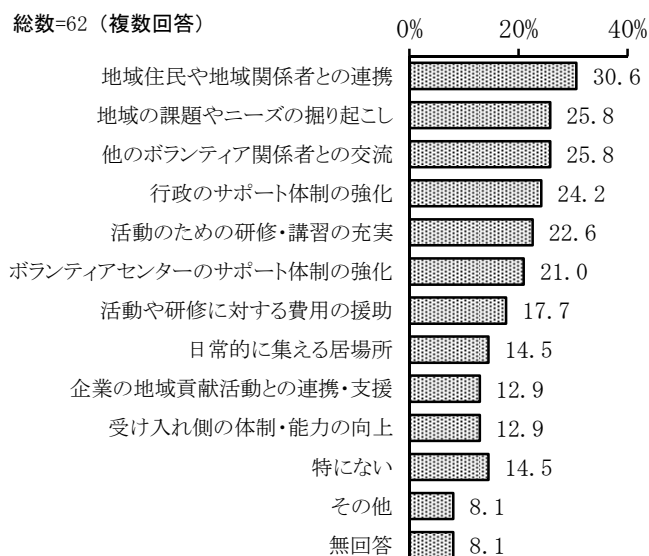
(10) 今後の活動の意向

Q 9 あなたは今後、ボランティア活動をどのようにしていきたいと思いますか。(〇は一つ)



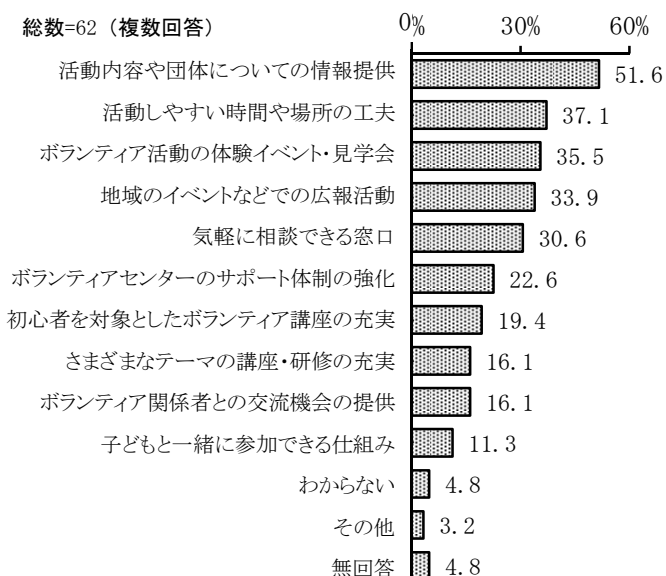
(11) より良い活動のために必要なこと

Q 10 あなたは、ボランティア活動をより良いものにしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



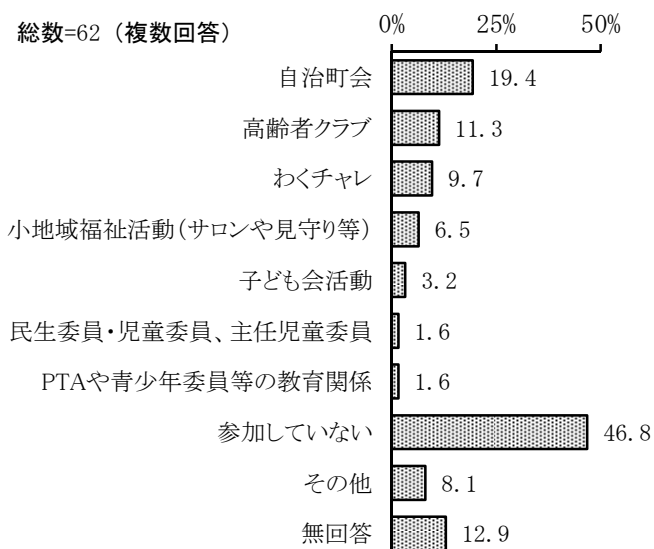
(12) ボランティア活動への参加者を増やすために必要なこと

Q 11 あなたは、ボランティア活動を始める人を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



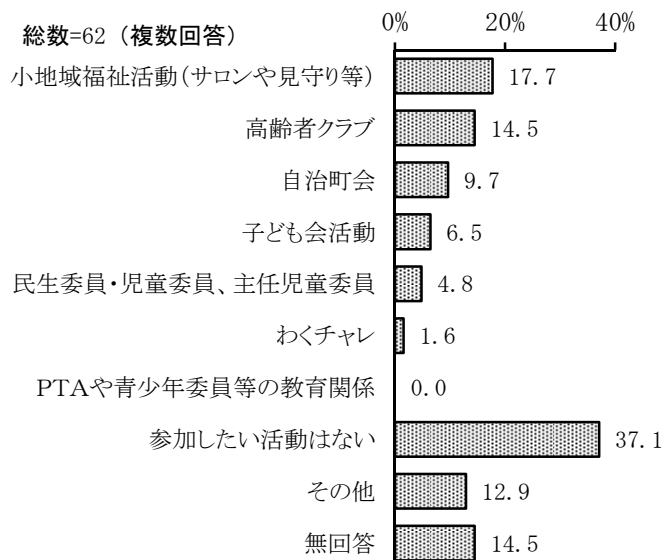
(13) 地域活動への参加状況

Q12 あなたは、ボランティア活動以外に、地域活動に参加していますか。参加している方はその活動をお答えください。(〇はいくつでも)



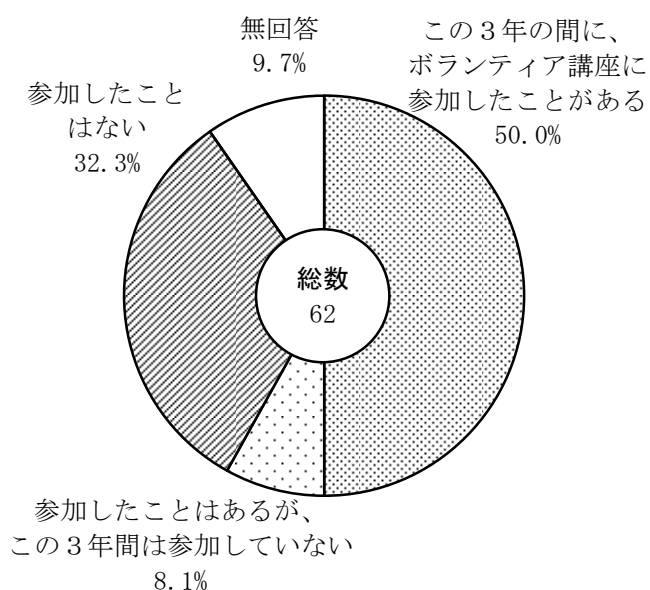
(14) 今後の地域活動への参加意向

Q13 あなたは今後、現在参加しているもの以外の地域活動に新たに参加したいと思いますか。参加したい方はその活動をお答えください。(〇はいくつでも)



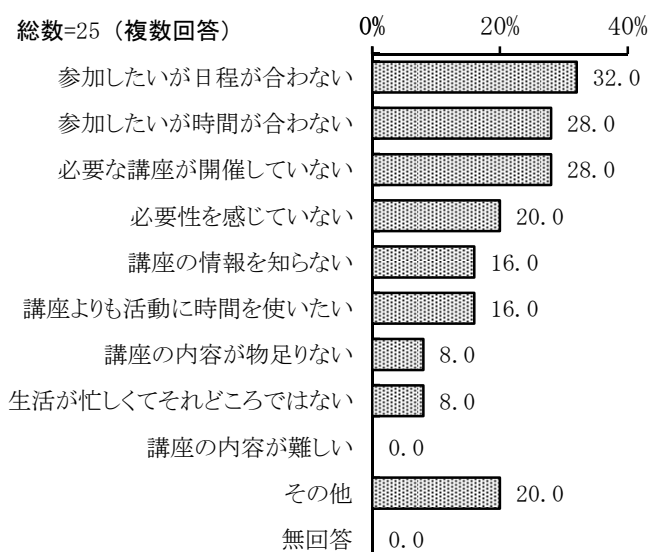
(15) ボランティア講座への参加経験

Q14 あなたは、この3年間でボランティア講座に参加したことがありますか。(〇は一つ)



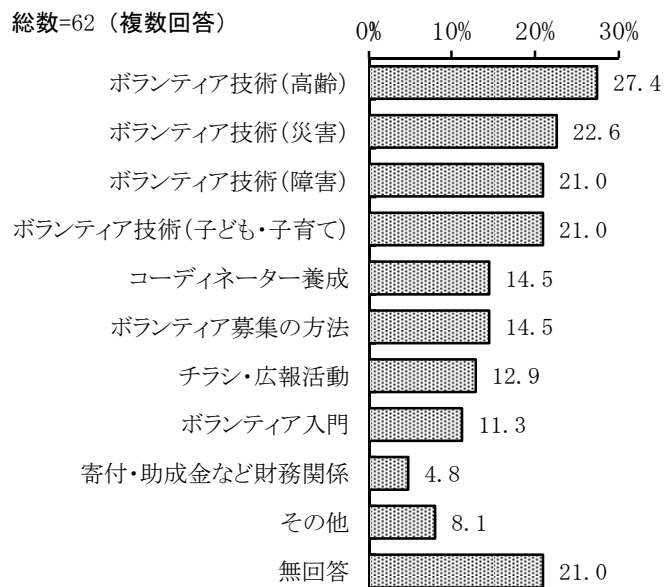
(16) ボランティア講座に参加していない理由

Q15 この3年間でボランティア講座に参加していない方にお聞きします。あなたが、ボランティア講座に参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



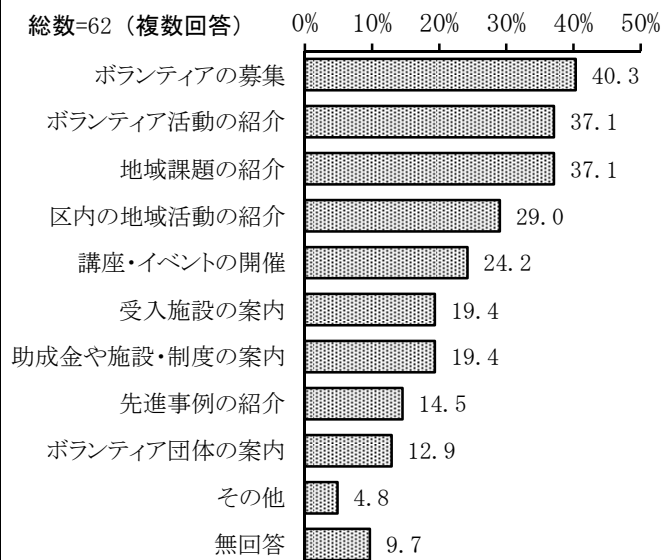
(17)開催してほしいボランティア講座

Q16 あなたが今後、開催してほしいボランティア講座の内容はなんですか。(〇はいくつでも)



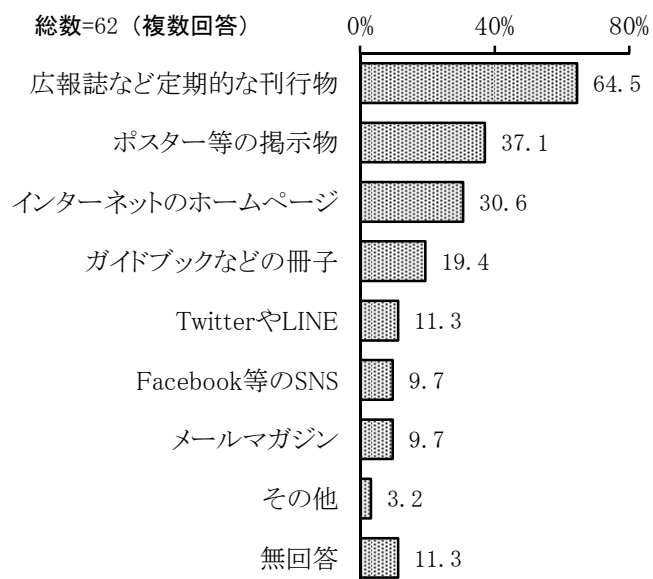
(18)必要だと思うボランティア活動の情報

Q17 あなたが、必要だと思うボランティア活動の情報はなんですか。(〇はいくつでも)



(19)利用しやすいボランティア活動の情報の発信方法

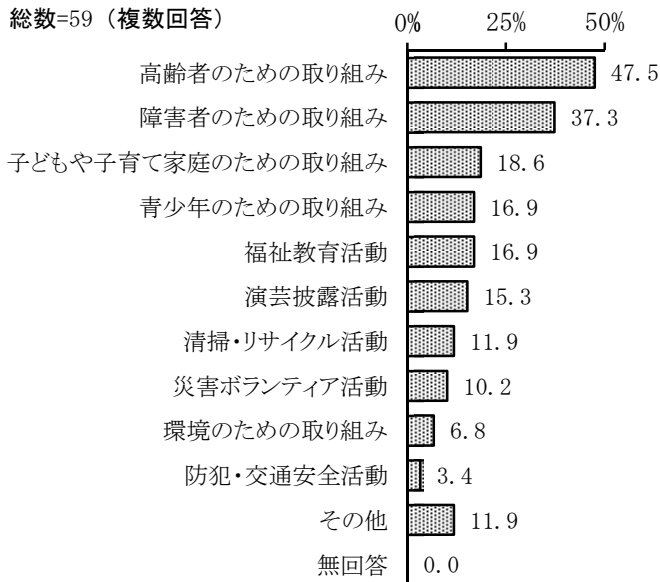
Q18 あなたは、ボランティア活動の情報について、どのような方法で発信されていたら利用しやすいと思いますか。(〇はいくつでも)



(2) ボランティア団体調査

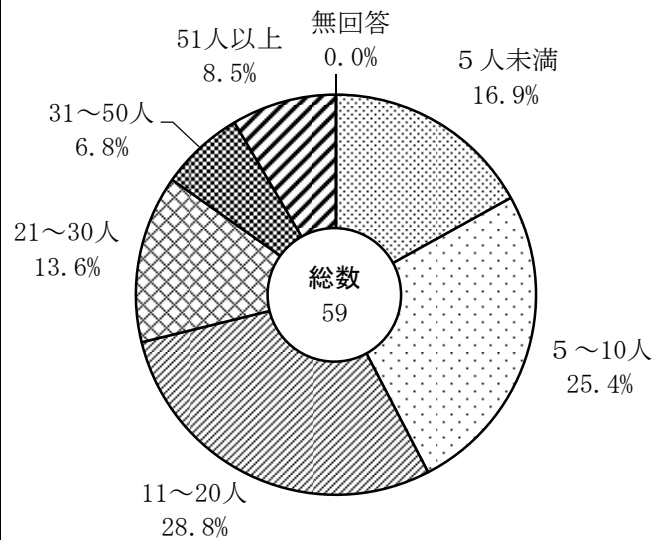
(1) ボランティア活動の分野

Q 2 貴団体の行っているボランティア活動はどのような内容ですか。(〇はいくつでも)



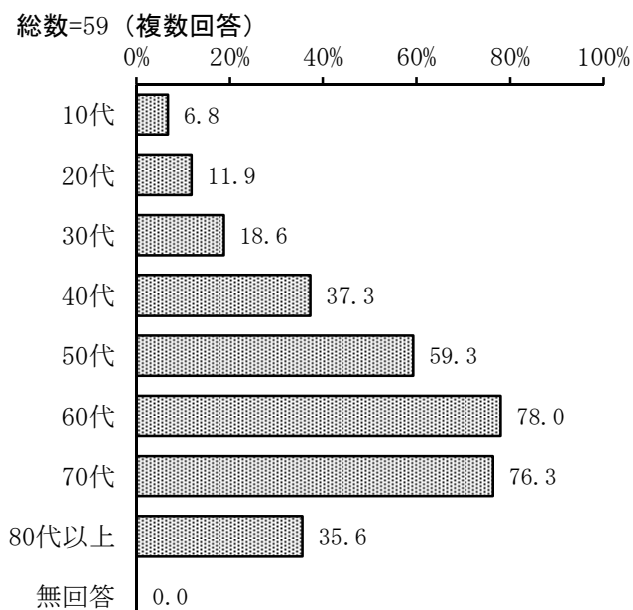
(2) メンバーの人数

Q 3 貴団体でボランティア活動に参加しているメンバーは何人ですか。(〇は一つ)



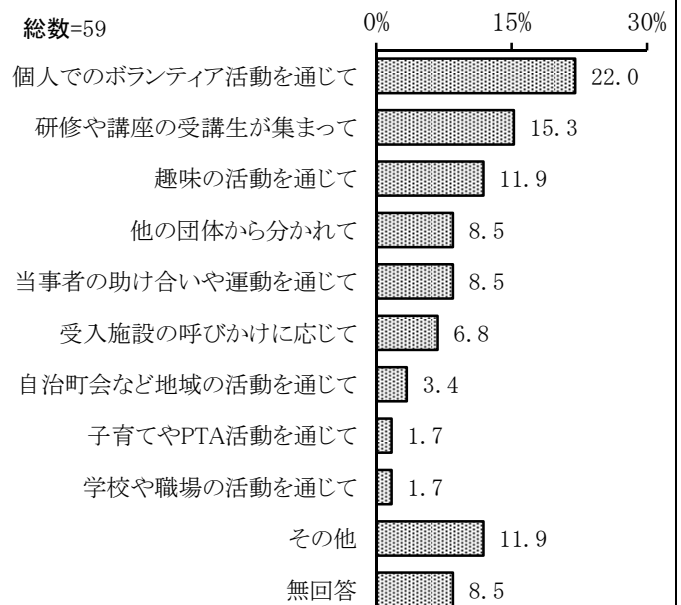
(3) メンバーの年齢層

Q 4 貴団体のメンバーの年齢層をお聞きます。ボランティア活動に参加しているメンバー全員の年齢層をお答えください。(〇はいくつでも)



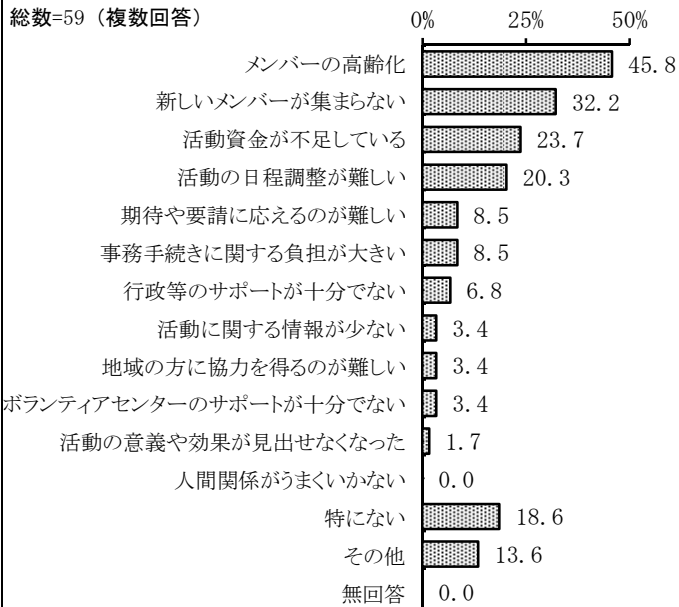
(4) 団体設立のきっかけ

Q 5 貴団体が、設立したきっかけは何ですか。(〇は一つ)



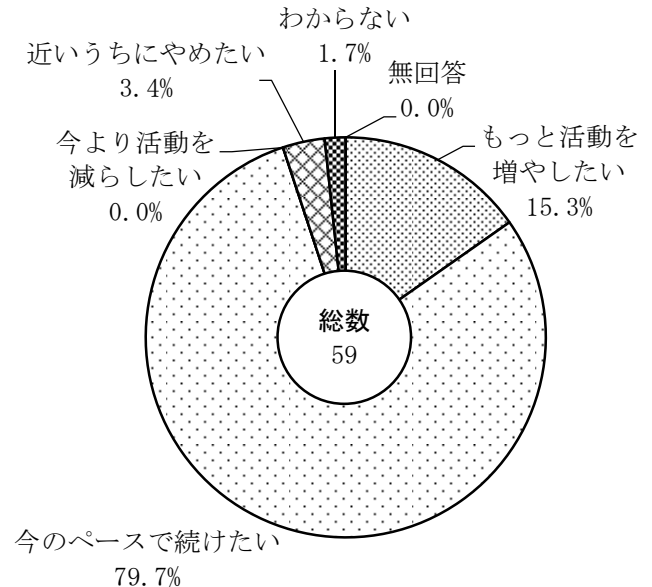
(5) ボランティア活動で困っていること

Q 6 貴団体には、ボランティア活動に関して困っていることはありますか。(〇はいくつでも)



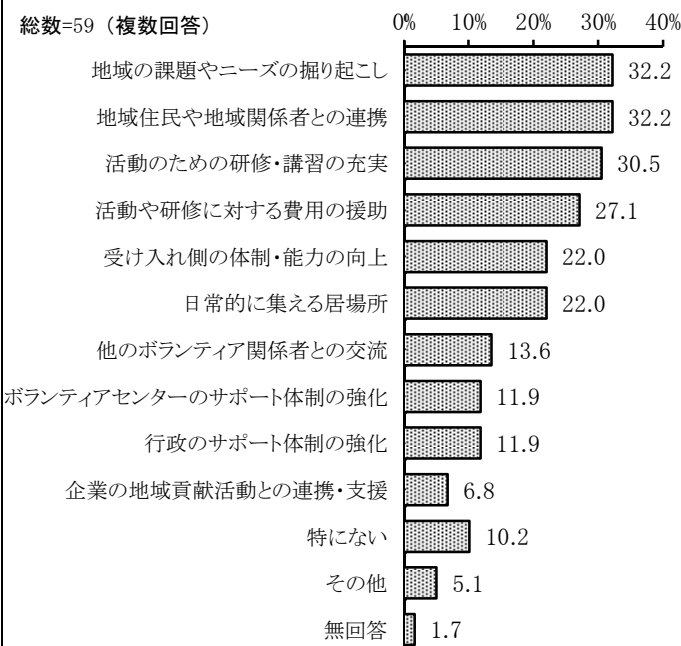
(6) 今後の活動の意向

Q 7 貴団体は今後、ボランティア活動をどのようにしていきたいと思いますか。(〇は一つ)



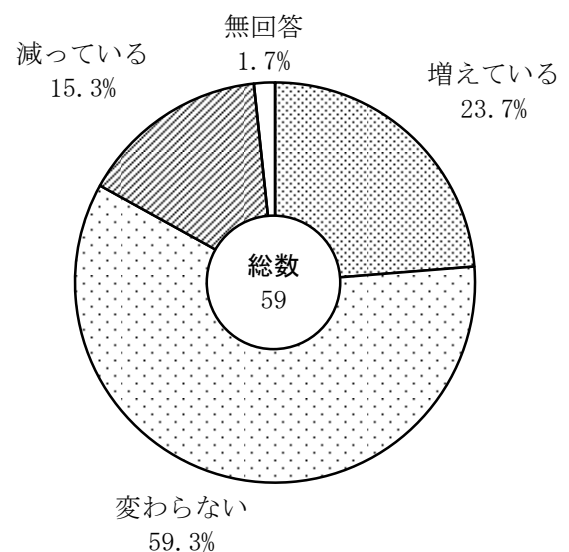
(7) より良い活動のために必要なこと

Q 8 あなたは、ボランティア活動をより良いものにしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



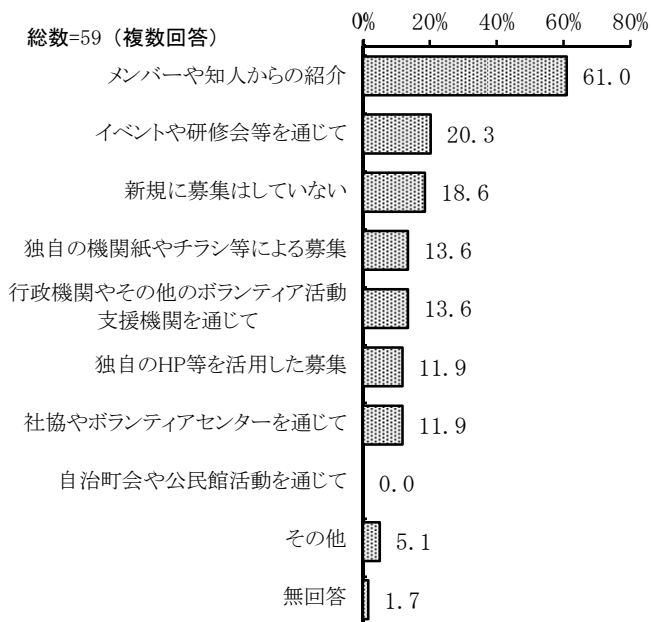
(8) 3年間でのメンバーの増減

Q 9 貴団体で、ボランティア活動に参加しているメンバーの人数について、この3年間での増減をお聞きます。(〇は一つ)



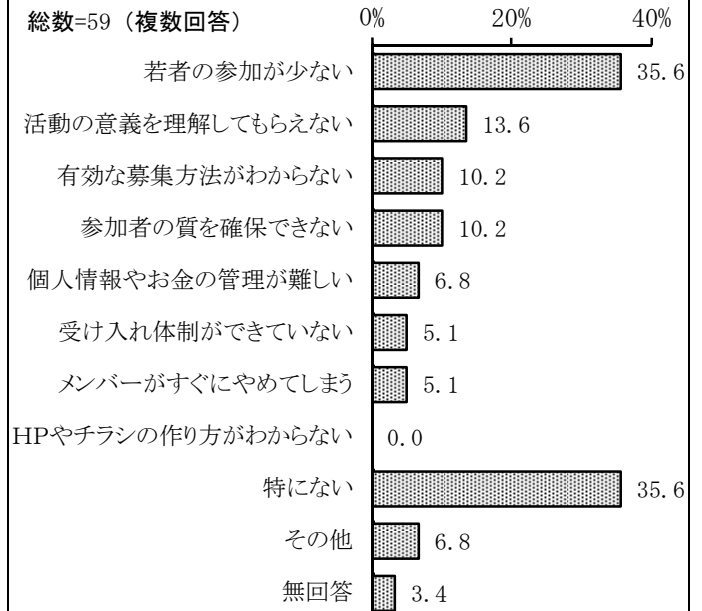
(9)おこなっているメンバー募集の取り組み

Q10 貴団体では、ボランティア活動に参加するメンバーの募集についてどのような取り組みをおこなっていますか。(〇はいくつでも)



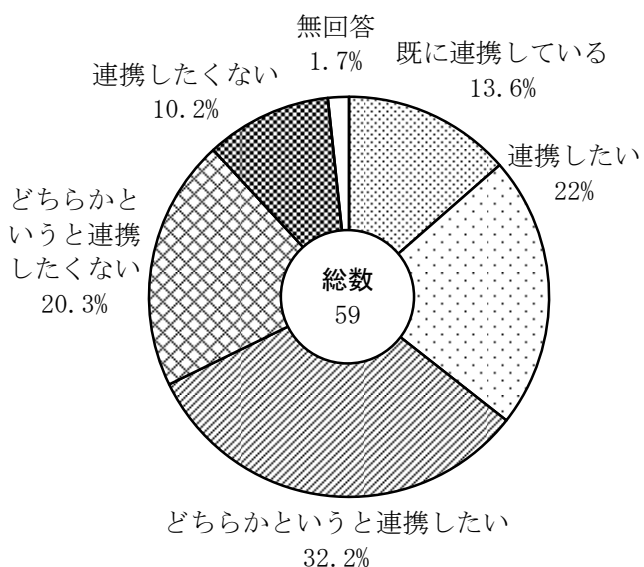
(10)メンバー募集で困っていること

Q11 貴団体が、ボランティア活動に参加するメンバーの募集に関して困っていることはありますか。(〇はいくつでも)



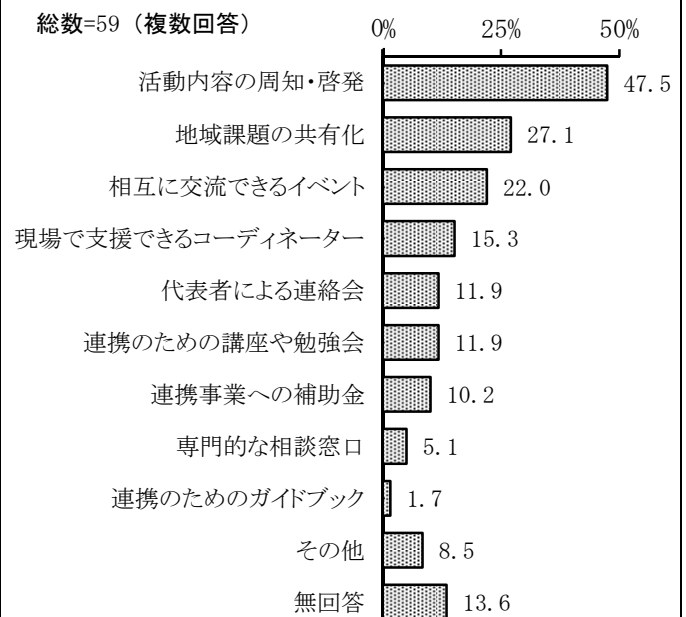
(11)地域団体との連携意向

Q12 貴団体は、ボランティア活動において、地域団体（自治町会等）との連携に取り組みたいと思いますか。(〇は一つ)



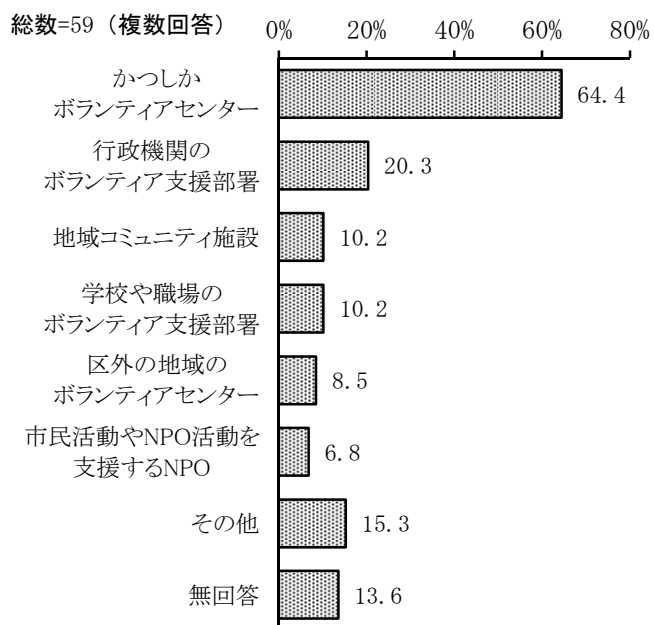
(12)地域団体と連携する上で必要な取り組み

Q13 貴団体が、ボランティア活動において、地域団体（自治町会等）と連携する上でどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



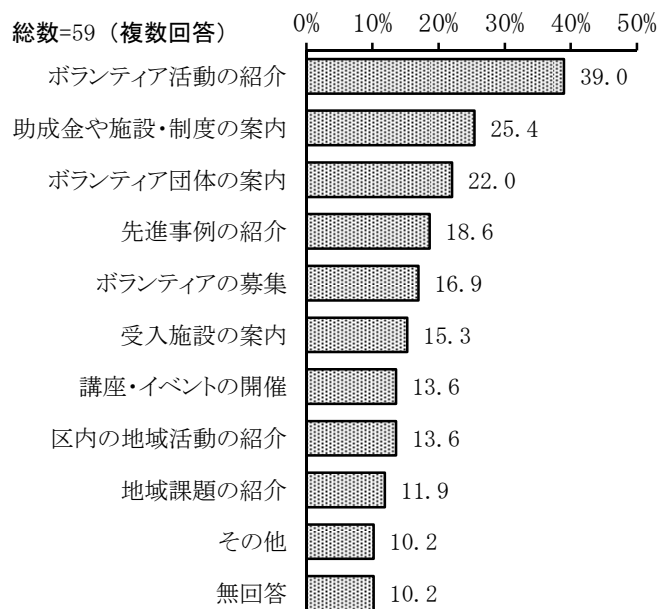
(13) 支援やサービスを受けている機関

Q14 貴団体がボランティア活動をするにあたり、どのような機関の支援やサービスを受けていますか。(〇はいくつでも)



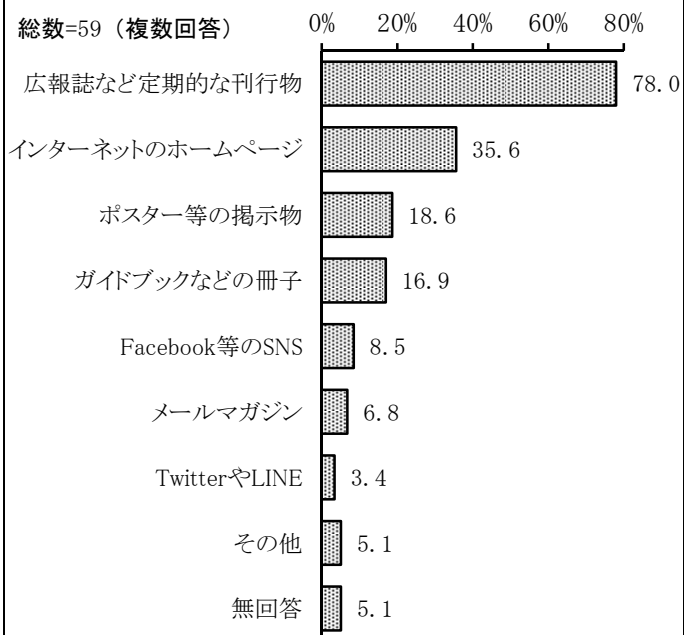
(14) 必要だと思うボランティア活動の情報

Q15 貴団体が、必要だと思うボランティア活動の情報はなんですか。(〇はいくつでも)



(15) 利用しやすいボランティア活動の情報の 発信方法

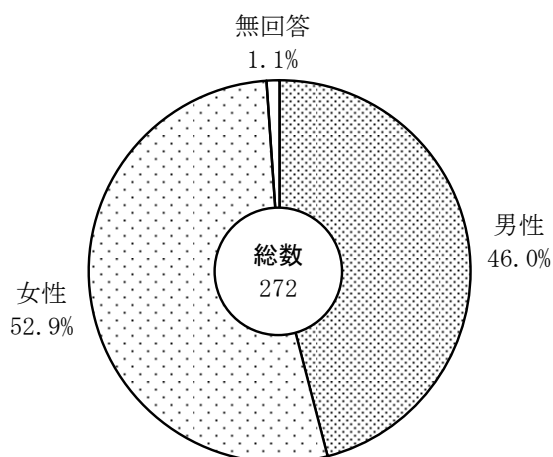
Q16 貴団体は、ボランティア活動の情報について、どのような方法で発信されていたら利用しやすいと思いますか。(〇はいくつでも)



(3) 高校生調査

(1) 性別

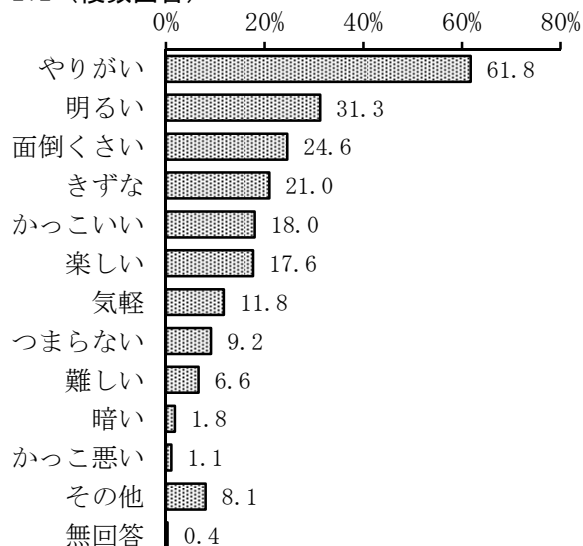
あなたの性別をお聞きます。(○は一つ)



(2) ボランティアに対するイメージ

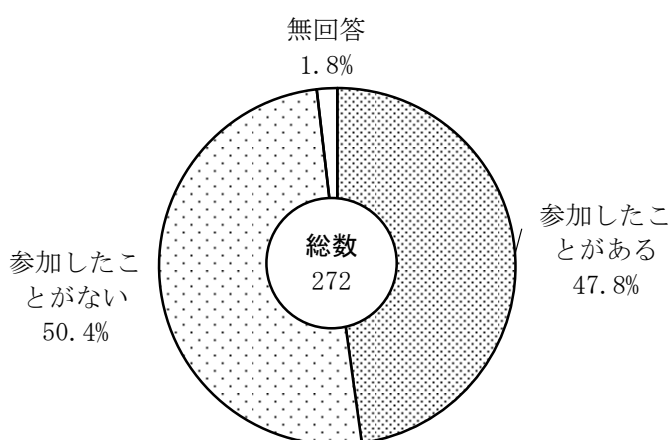
Q1 あなたが、ボランティア活動に対して抱くイメージをお聞きます。(○はいくつでも)

総数=272 (複数回答)



(3) 学校以外でのボランティア活動の経験

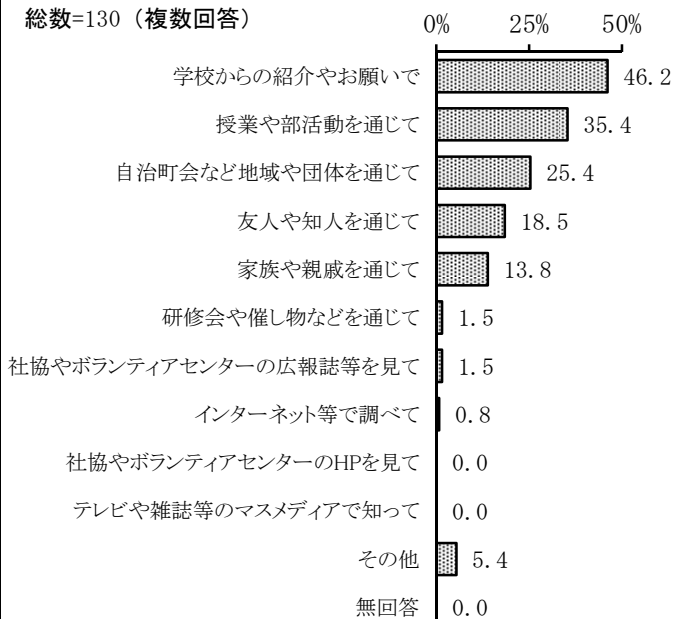
Q2 あなたは、これまで学校での出前講座や職場体験、学校周辺での環境美化活動など以外で、自ら進んでボランティア活動に参加したことがありますか。(○は一つ)



(4) 学校以外でのボランティア活動のきっかけ

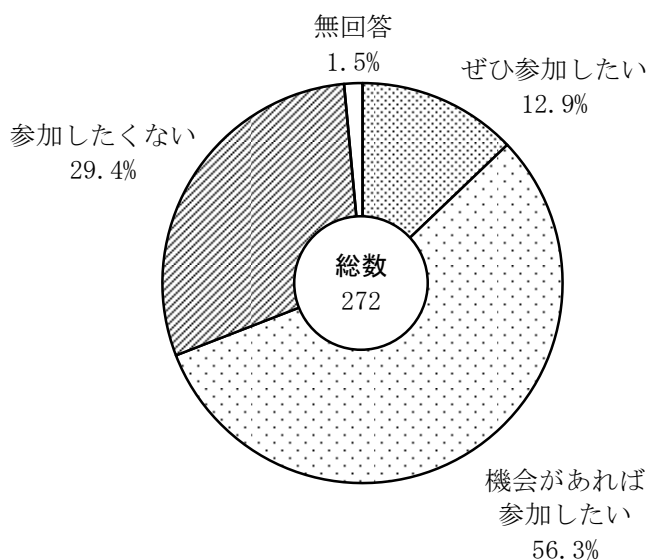
Q3 Q2で「1 参加したことがある」と答えた方にお聞きます。あなたが、自主的にボランティア活動に参加した直接のきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

総数=130 (複数回答)



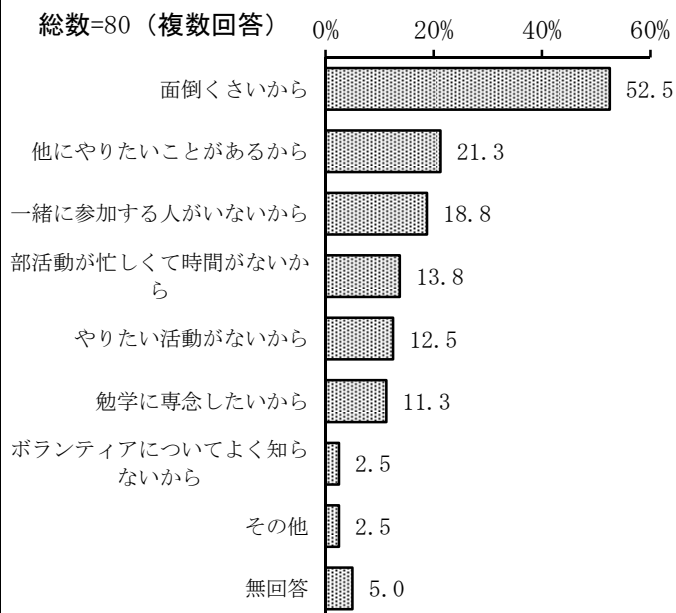
(5) ボランティア活動への参加意向

Q 4 あなたは今後、ボランティア活動に参加したいと思いますか。(○は一つ)



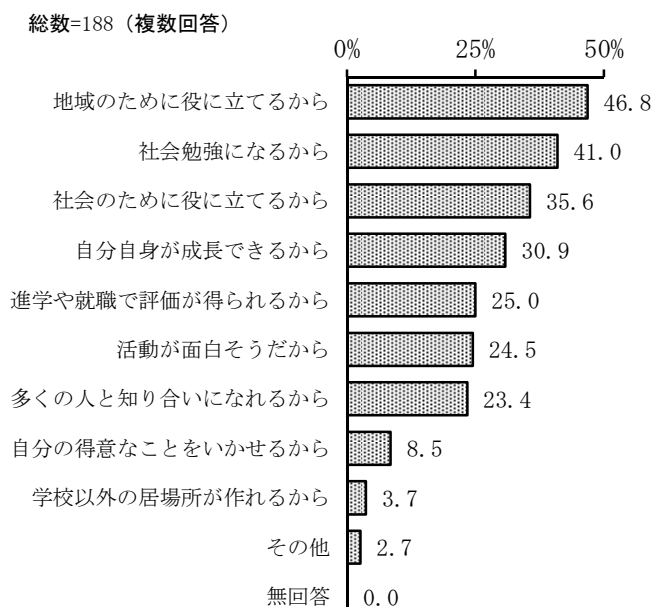
(6) ボランティア活動に参加したくない理由

Q 5 Q 4で「3 参加したくない」と答えた方にお聞きします。あなたが、ボランティア活動に参加したくないと思う理由は何ですか。(○はいくつでも)



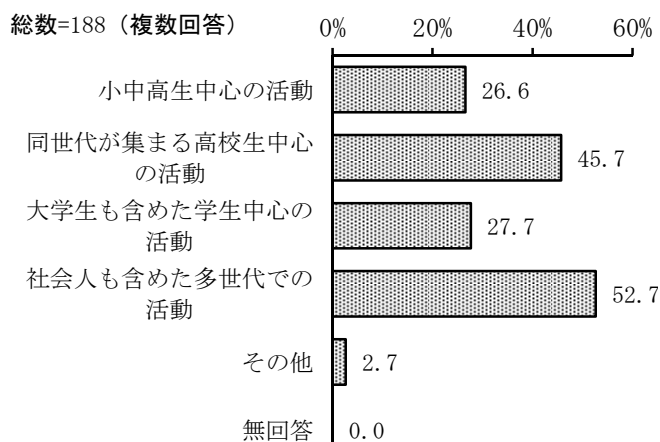
(7) ボランティア活動に参加したい理由

Q 6 Q 4で「参加したい (1, 2)」と答えた方にお聞きします。あなたが、ボランティア活動に参加したいと思う理由は何ですか。(○はいくつでも)



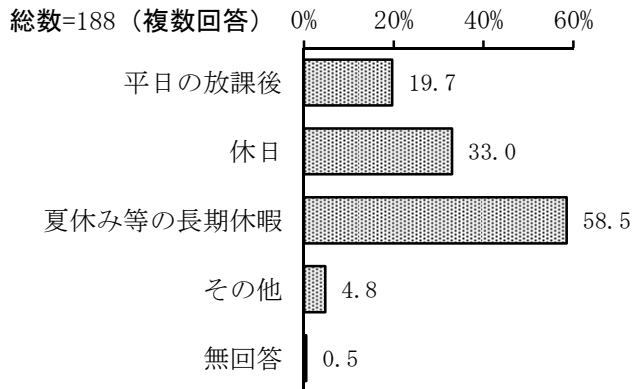
(8) いっしょにボランティア活動に参加したい年代

Q 7 Q 4で「参加したい (1, 2)」と答えた方にお聞きします。あなたは、どの年代の方といっしょにボランティア活動に参加したいですか。(○はいくつでも)



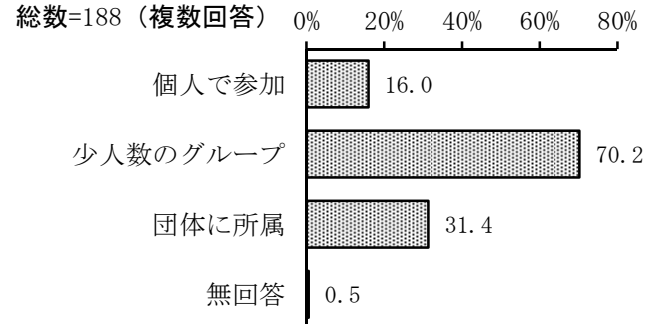
(9) ボランティア活動に参加する希望日時

Q8 Q4で「参加したい(1, 2)」と答えた方にお聞きします。あなたが、ボランティア活動に参加するときに希望する日時はいつですか。(〇はいくつでも)



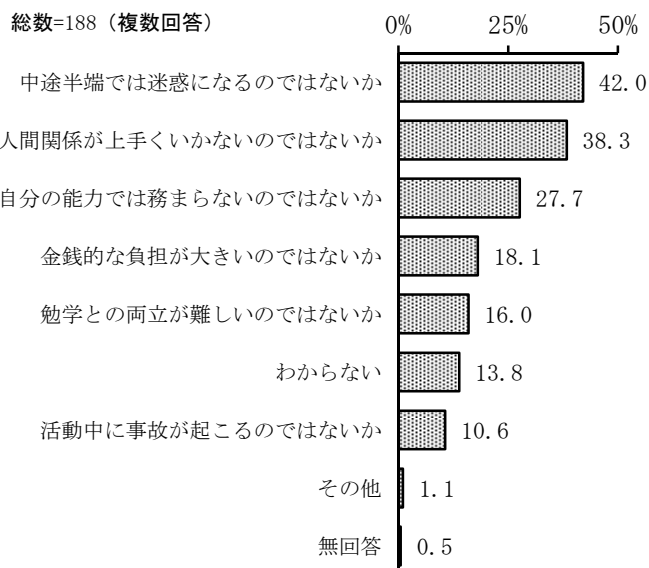
(10) ボランティア活動参加時の希望スタイル

Q9 Q4で「参加したい(1, 2)」と答えた方にお聞きします。あなたは、どのようなスタイルでボランティア活動に参加したいですか。(〇はいくつでも)



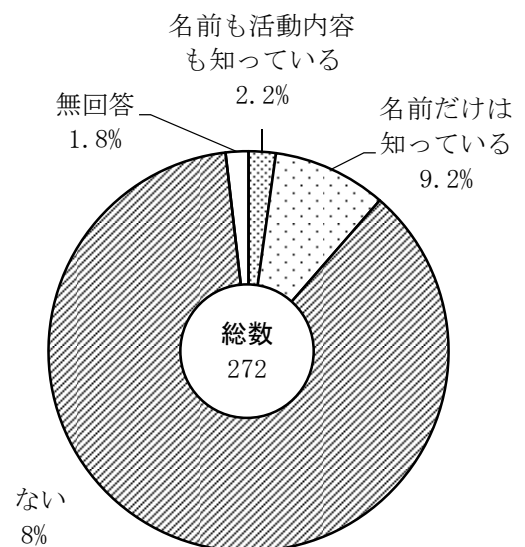
(11) ボランティア活動を始めるときに心配なこと

Q10 Q4で「参加したい(1, 2)」と答えた方にお聞きします。あなたが、ボランティア活動を始めようとするときに、心配なことは何ですか。(〇はいくつでも)



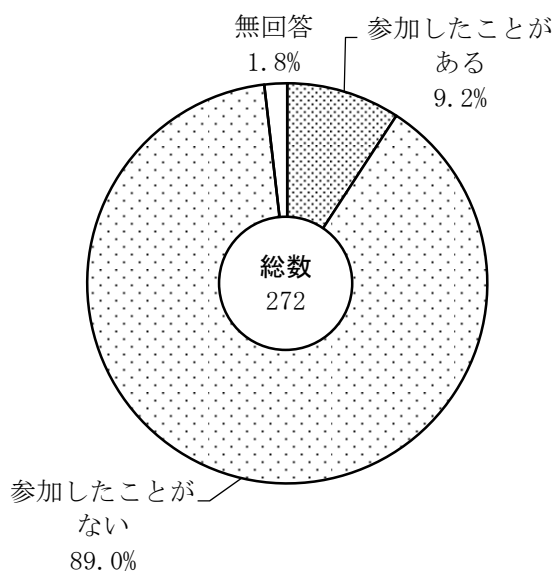
(12) かつしかボランティアセンターの認知度

Q11 あなたは、かつしかボランティアセンターを知っていますか。(〇は一つ)



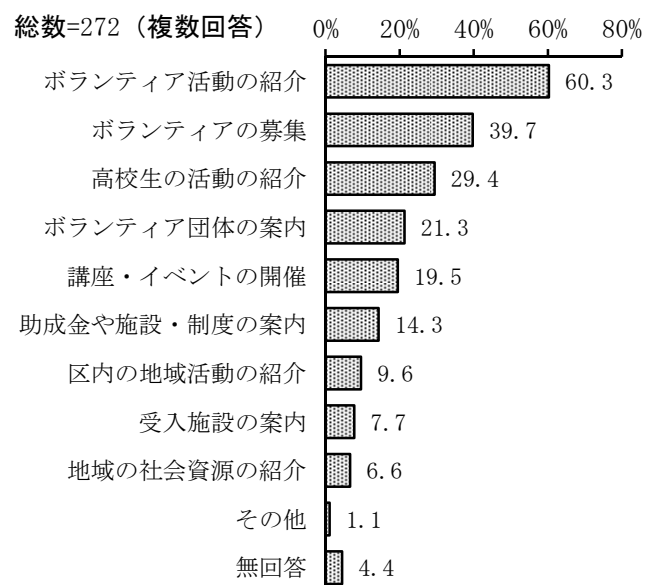
(13) 学校以外でのボランティア講座の参加経験

Q12 あなたは、これまで学校以外で開催されるボランティア講座などに参加したことがありますか。(○は一つ)



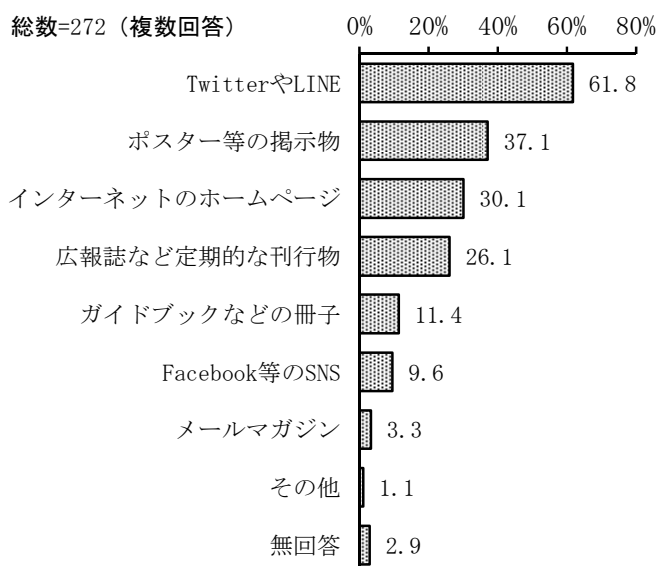
(14) 必要だと思うボランティア活動の情報

Q13 あなたが、必要だと思うボランティア活動の情報はなんですか。(○はいくつでも)



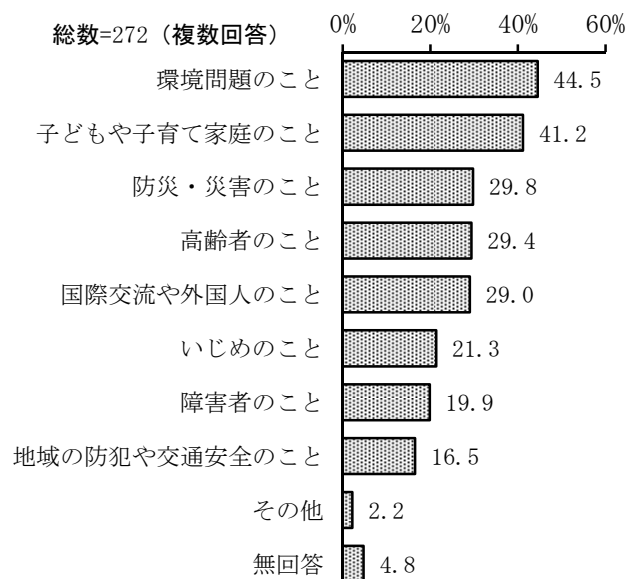
(15) 利用しやすいボランティア活動の情報

Q14 あなたは、ボランティア活動の情報について、どのような方法で発信されていたら利用しやすいと思いますか。(○はいくつでも)



(16) 関心のあるボランティア活動

Q15 あなたの身のまわりでの関心事や、関心のあるボランティア活動はどのような内容ですか。(○はいくつでも)



第 2 次 かつしかボランティア活動推進計画

平成 29 年 3 月

編集・発行

社会福祉法人 葛飾区社会福祉協議会

〒124-0006 葛飾区堀切 3 丁目 34 番 1 号

地域福祉・障害者センター（ウェルピアかつしか）3 階

電 話 03-5698-2411 F A X 03-5698-2513
